

令和4年度 業務実績等報告 中期目標期間 業務実績等報告 説明資料

地方独立行政法人 宮城県立病院機構

目次

- 令和4年度事業概要 P3
- 令和4年度経営状況 P5
- 令和4年度事業実績自己評価総括表及び評価基準 P11
- 令和4年度事業各項目ごとの取組
 - ・ I 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 P14
 - ・ II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 P63
 - ・ III～VIII 予算、収支計画及び資金計画等について P70
 - ・ IX その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 P79
- 中期目標期間の業務実績等について P83
- 補足1・補足2 巻末

令和4年度事業概要 1/2

1 事業を取り巻く環境

(1) 目的

不採算医療を含む政策医療や高度・専門医療及び環境の変化に対応した安全で質の高い医療の提供。

(2) 経営環境

急速に進む少子高齢化や医療技術の高度化、医療人材の不足など、経営を取り巻く環境は、年々厳しさを増している。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大が医療体制に大きな影響を及ぼし、経営悪化にも影響。

こうした厳しい経営環境下においても、政策医療や高度・専門医療の提供という使命を果たす必要がある。

令和4年度事業概要 2/2

2 令和4年度の主な取組

(1) 信頼される病院を目指し、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底をしつつ、「医療の質」及び「経営の質」を高めるべく事業を実施した。

(2) 職員一人ひとりが高度・専門医療を担う自覚を持ち、以下の重点事項に取り組んだ。

- ① 質の高い医療の提供
- ② 安全・安心な医療の提供
- ③ 患者や家族の視点に立った医療の提供
- ④ 人材の確保と育成
- ⑤ 災害等への対応
- ⑥ その他の重要な取組

令和4年度経営状況 1/6

- ◎ 政策医療や高度・専門医療の提供に加え、新型コロナウイルス感染症に関して、感染患者の受け入れや療養施設における支援など、柔軟で弾力的な病院運営に努めた。



【精神医療センター】



【がんセンター】

- スライド6～9 機構全体の収益的収支について
- スライド10 各施設（病院）ごとの損益について

※各病院の経営状況の詳細については以下を参照

資料4 令和4年度財務諸表等

- 病院別貸借対照表・損益計算書
- 事業報告書
- 決算報告書

令和4年度経営状況 2/6

(1) 収 益

【収益的収支】(税込)

(単位:千円)

科 目	R4予算(ア)	R4決算(イ)	増減(イ)-(ア)
I 営業収益(A)	15,809,848	15,809,486	△362
1 医業収益	12,384,000	11,786,469	△597,531
(1)入院収益	7,558,719	7,156,161	△402,558
(2)外来収益	4,442,409	4,201,531	△240,878
(3)その他医業収益	382,872	428,777	45,905
2 運営費負担金収益	2,736,177	2,355,335	△380,842
3 資産見返運営費負担金戻入	647,619	647,619	0
4 その他	42,052	1,020,062	978,010
III 営業外収益(D)	115,817	119,823	4,006
1 運営費負担金収益	56,926	56,926	0
2 その他	58,891	62,897	4,006

《 入 院 》	R4予算(ア)	R4決算(イ)	増減(イ)-(ア)
延べ患者数 (人)	164,980	150,952	△14,028
患者一人当たりの 診療収入(円)	45,816	47,407	1,591

《 外 来 》	R4予算(ア)	R4決算(イ)	増減(イ)-(ア)
延べ患者数 (人)	121,257	122,538	1,281
患者一人当たりの 診療収入(円)	36,636	34,287	△2,349

令和4年度経営状況 3/6

(2) 費用

【収益的収支】(税込)

(単位:千円)

科 目	R4予算(ア)	R4決算(イ)	増減(イ)－(ア)
Ⅱ 営業費用(B)	15,734,377	15,693,656	△40,721
1 医業費用	15,034,797	14,991,739	△43,058
(1)給与費	7,123,694	7,143,527	19,833
(2)材料費	3,910,462	3,881,851	△28,611
(3)経費	2,656,899	2,614,395	△42,504
(4)減価償却費	1,195,161	1,208,695	13,534
(5)研究研修費	148,581	143,273	△5,308
2 一般管理費	200,399	200,513	114
3 その他	499,181	501,403	2,222
Ⅳ 営業外費用(E)	150,218	103,656	△46,562
(1)財務費用(支払利息)	68,949	50,562	△18,387
(2)その他	81,269	53,094	△28,175

令和4年度経営状況 4/6

(3) 損益の状況

【収益的収支】(税込)

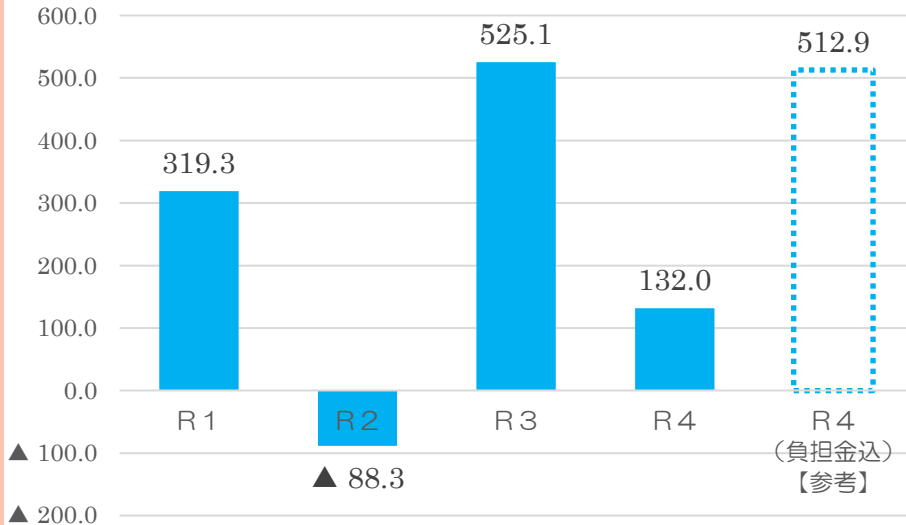
(単位:千円)

科 目	R4予算(ア)	R4決算(イ)	増減(イ)－(ア)
I 営業収益(A)	15,809,848	15,809,486	△362
II 営業費用(B)	15,734,377	15,693,656	△40,721
営業損(△)益(C) = (A) - (B)	75,471	115,830	40,359
III 営業外収益(D)	115,817	119,823	4,006
IV 営業外費用(E)	150,218	103,656	△46,562
経常損(△)益(F) = (C) + (D) - (E)	41,070	131,997	90,927
V 臨時利益(G)	0	8,195	8,195
VI 臨時損失(H)	2	0	△2
当年度純損(△)益(I) = (F) + (G) - (H)	41,068	140,192	99,124
目的積立金取崩額	0	0	0
当年度総損(△)益	41,068	140,192	99,124

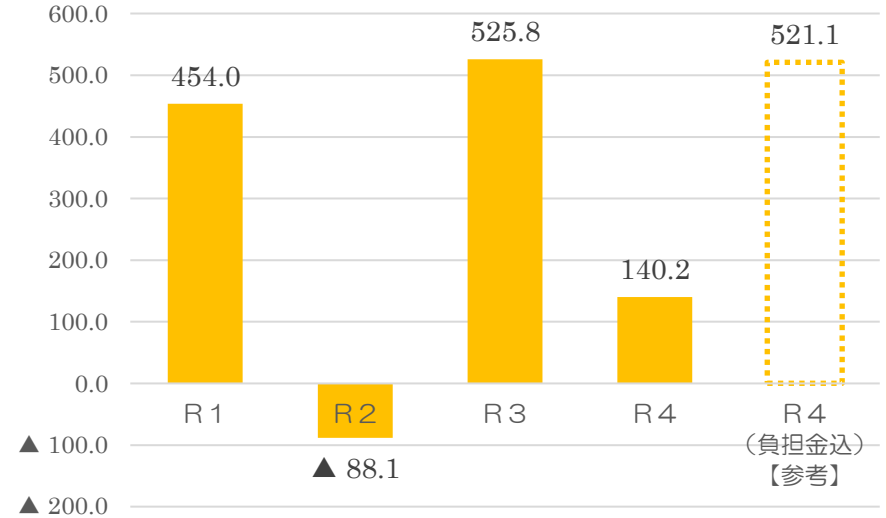
令和4年度経営状況 5/6

(4) 損益の推移 (機構全体)

経常損益の推移 (百万円)



純損益の推移 (百万円)



運営費負担金（職員退職経費分）について、R4から資本助成として取扱う整理としたことに伴い、R4の金額は当該負担金（380.9百万円）を含まない。（詳細は、スライド【補足2】を参照）

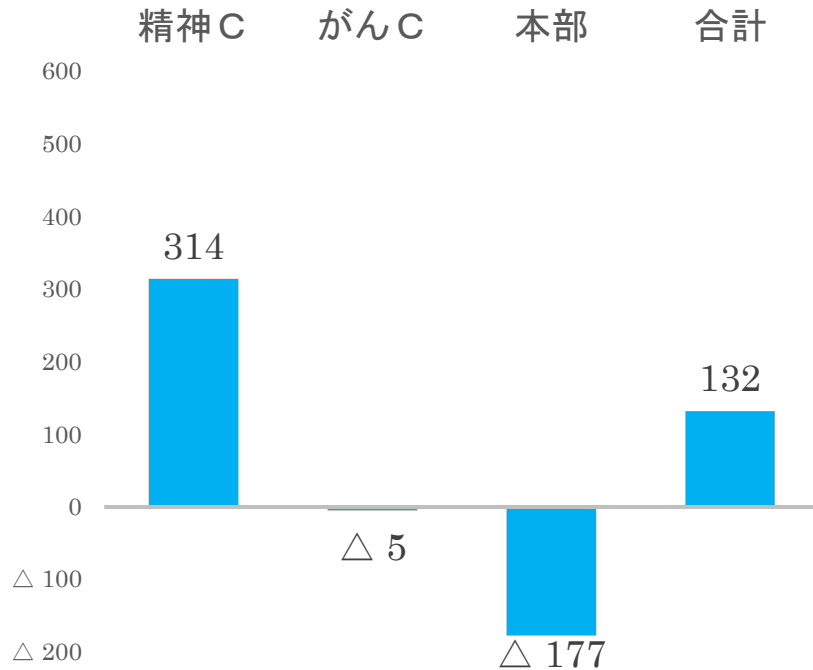
※従来の計上方法（当該負担金を収益計上）した場合の金額は【参考】のとおり。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、2病院において入院収益が目標を下回ったものの、コロナ病床確保に係る補助金の受入等により経常損益は約132百万円、純損益は約140百万円の黒字となった。

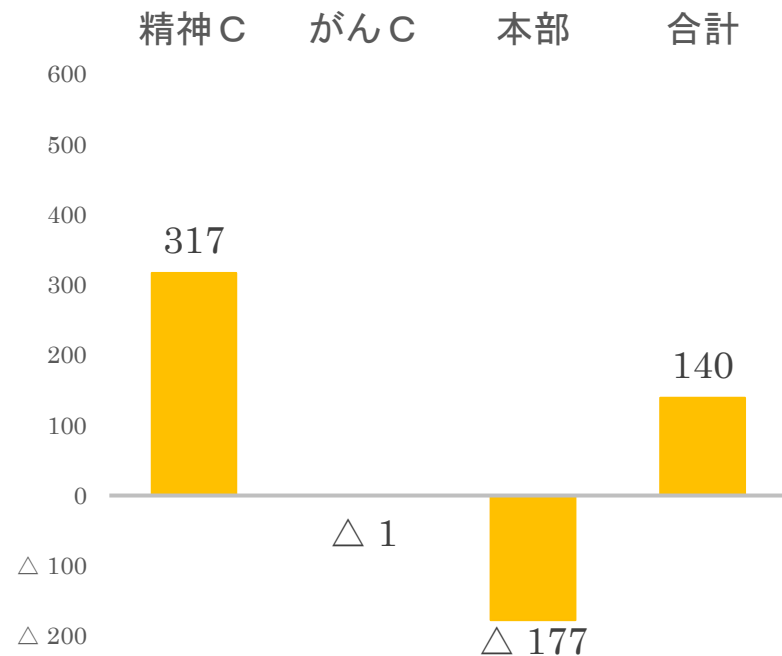
令和4年度経営状況 6/6

(5) 各施設ごとの令和4年度の損益

各施設の経常損益（百万円）



各施設の当期純損益（百万円）



新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でも精神医療センターは経常損益、当期純損益ともに黒字を確保した。

項目別評価総括表

大項目	令和4年度 年度計画の項目	自己評価			
		精神医療センター	がんセンター	本部	総合
I	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置				
	1 質の高い医療の提供				
	イ 政策医療、高度・専門医療の確実な提供	B	A		
	ロ 医療機器、施設の計画的な更新・整備	B	B		
	ハ 地域医療への貢献	B	A		
	ニ 医療に関する調査研究と情報の発信	B	B		
	2 安全・安心な医療の提供	A	A	B	A
	3 患者や家族の視点に立った医療の提供	B	B	B	B
	4 人材の確保と育成	B	B	B	B
5 災害等への対応	A	A	A	A	
II	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置				
	1 業務運営体制の確立				B
	2 収益確保の取組	B	B		
	3 経費削減への取組	B	B	B	

Ⅲ	第3 予算、収支計画及び資金計画				
	1 経常収支比率の均衡				
	2 経営基盤の立て直し				
Ⅳ	第4 短期借入金の限度額				B
	1 限度額				
	2 想定される理由				
Ⅴ	第5 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画				
Ⅵ	第6 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画				
Ⅶ	第7 剰余金の使途				
Ⅷ	積立金の処分に関する計画 ※年度計画に記載なし				
Ⅸ	第8 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置				
	1 人事に関する事項				B
	2 就労環境の整備				B
	3 病院の信頼度の向上	B	B		

青文字・・・令和3年度評価から1ランク上がったもの。

令和4年度実績の評価基準

■ S～Dの5段階評価

S評価：目標を量的及び質的に上回る顕著な成果

- ◇定量的目標 ～ 対計画値 110%以上かつ困難度「高」
- ◇定量的目標で評価できない項目 ⇒ S評価なし

A評価：目標を上回る成果

- ◇定量的目標 ～ 対計画値 110%以上
- ◇定量的目標で評価できない項目 ⇒ 目標の水準をはるかに上回る
成果の根拠、理由

B評価：目標を達成

- ◇定量的目標 ～ 対計画値 100%以上110%未満
- ◇定量的目標で評価できない項目 ⇒ 目標の水準を上回る
成果の根拠、理由

C評価：目標を下回り、改善を要する

- ◇定量的目標 ～ 対計画値 80%以上100%未満

D評価：目標を下回り、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める

- ◇定量的目標 ～ 対計画値の 80%未満

【令和4年度の実施状況及び自己評価 1/2】

県内唯一の精神科救急急性期医療入院料算定病棟

：スーパー救急病棟（北1・北2病棟）の効率的・効果的運用

院長チームラウンド等により、隔離室・個室確保のためのベッド調整を効率的に実施

- ・北1病棟病床稼働率：89.4%
- ・北2病棟病床稼働率：83.9%
- ・精神科救急病棟患者数：31,356人（スライド17、18参照）

措置入院の受入

宮城県内における措置入院件数：175人

うち精神医療センター受入数：110人 → 県内の62.9%を受け入れている。

県の「精神科救急医療システム」（365日24時間体制）での中心的な役割

民間では対応困難な多様な患者の受入に努めている。

【令和4年度の取組状況及び自己評価 2/2】

地域移行・地域定着支援の実施

退院前から在宅医療のケア体制を十分に説明

退院後の在宅生活を支えるため、多職種による訪問支援、地域との連携による多方面からの支援実施

- ・訪問看護実施回数 R3：4,773件 → R4：5,501件（前年+728件）（スライド19参照）
→ 職員1人の増員により、患者担当制からエリア担当制に移行し、移動時間の短縮化等を図り、訪問件数の増につながった。

児童思春期医療の提供

新患受付枠を最大限に運用し、積極的な患者の受入に努めるとともに、デイケアの中で就学や就職に向けた支援等を実施

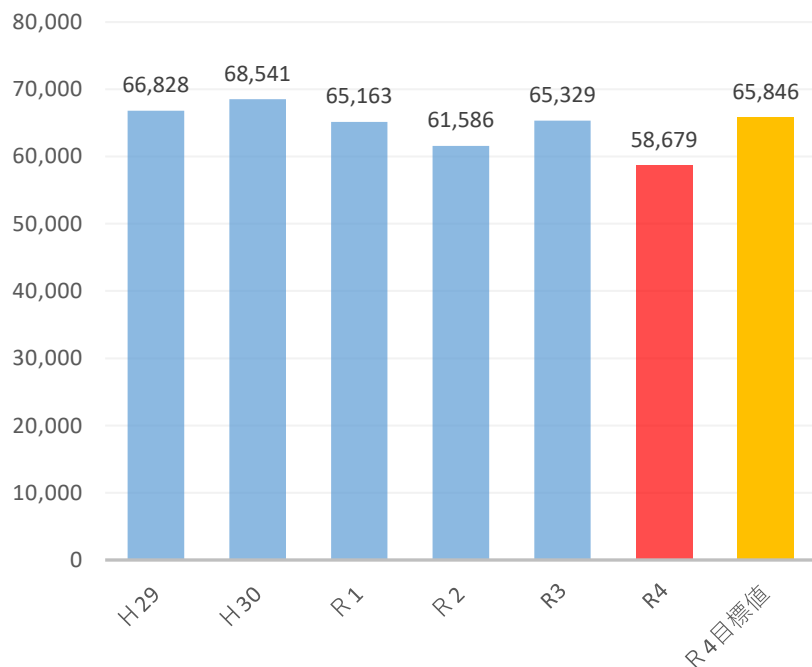
以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



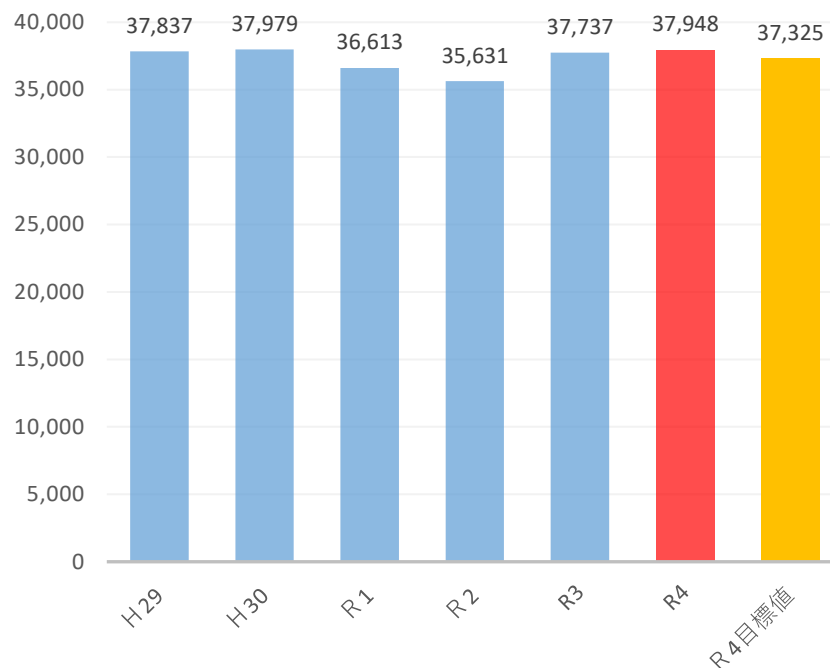
令和4年度自己評価 B

■ 精神医療センター

入院患者数（病院全体）



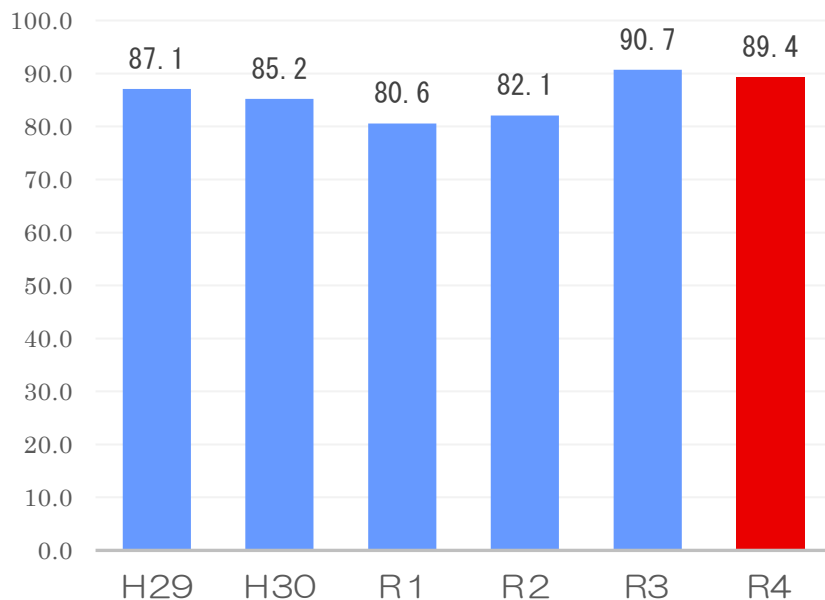
外来患者数（病院全体）



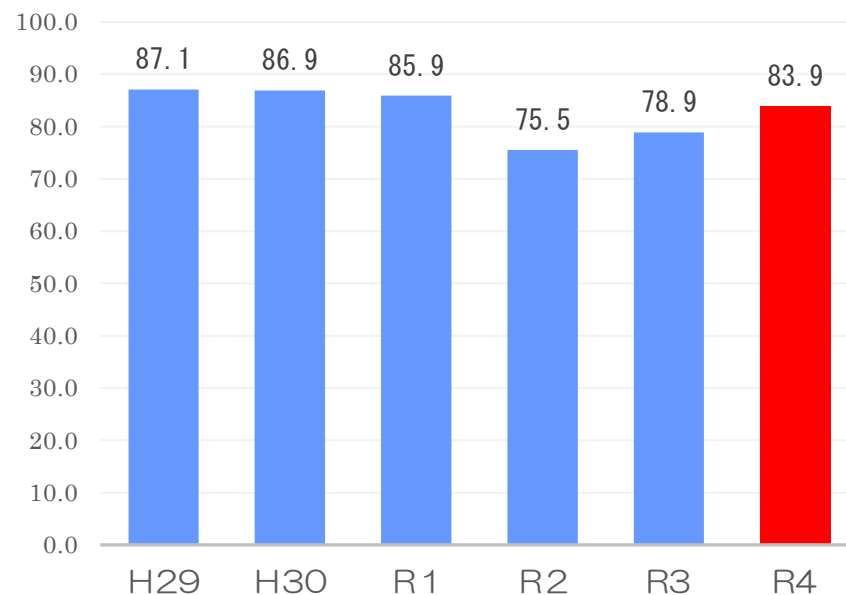
外来患者数は目標を達成。入院患者数については、常勤医師数の減（児童・思春期）などの要因により減少。

■ 精神医療センター

北1病棟病床稼働率 (%)



北2病棟病床稼働率 (%)



県内唯一の精神科救急入院料算定病棟（スーパー救急病棟）は、**高い稼働率**で効率的に運用。

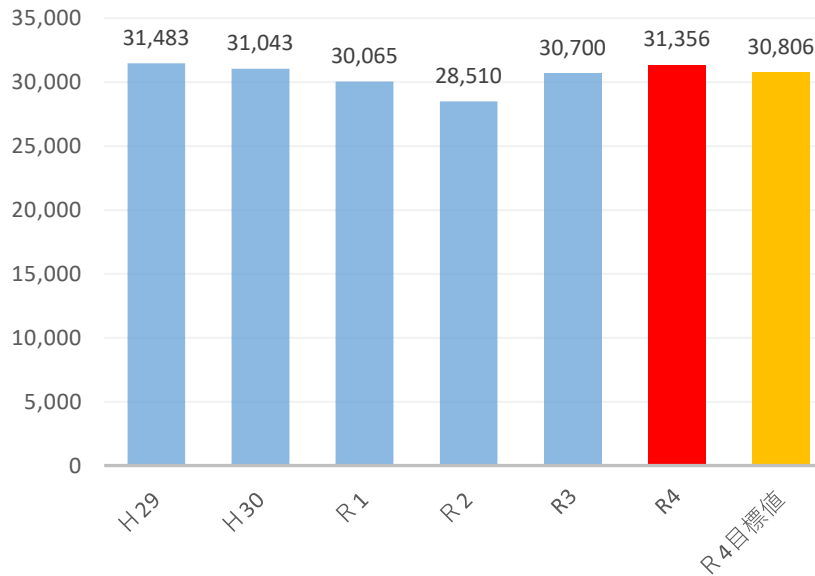
I-1-1 政策医療、高度・専門医療の確実な提供（精神C） 5/8

年度報告書 p1~2

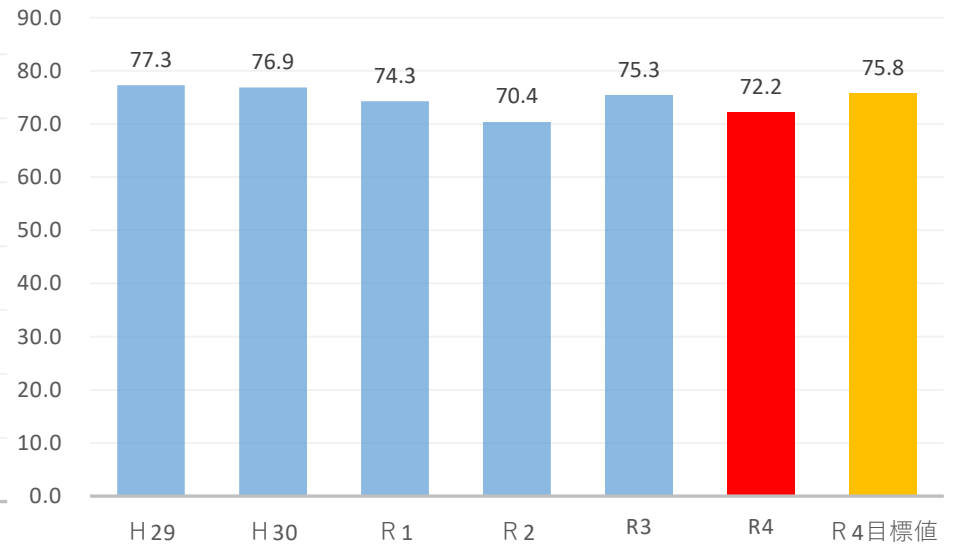
項目別評価総括表 I-1-1

■ 精神医療センター

精神科救急病棟患者数（人）



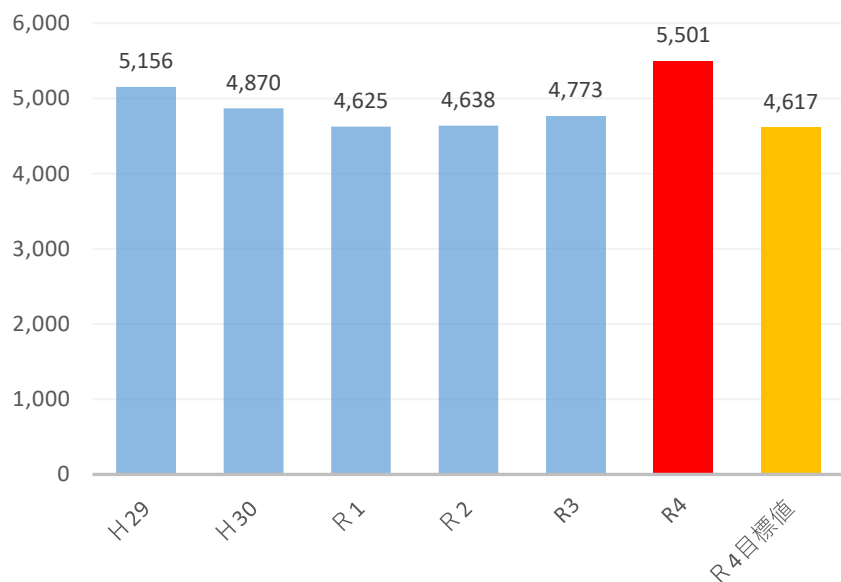
精神科救急急性期医療入院料適用患者割合（%）



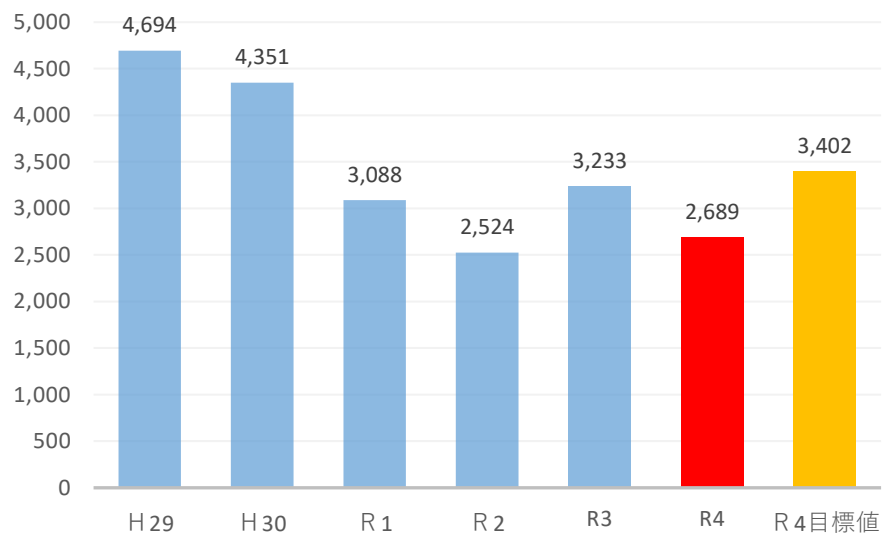
精神科救急病棟患者数は昨年度よりも増加。

■ 精神医療センター

訪問看護実施件数（件）



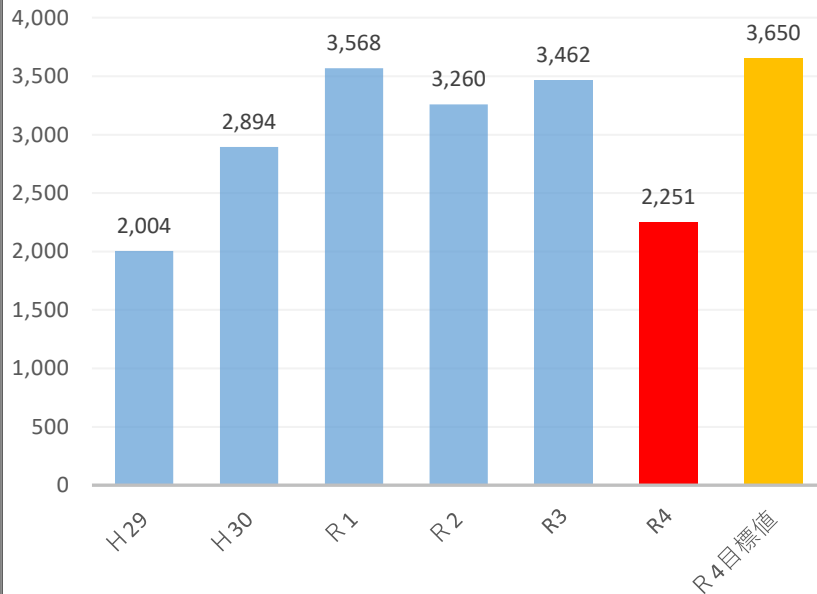
デイケア実施件数（件）



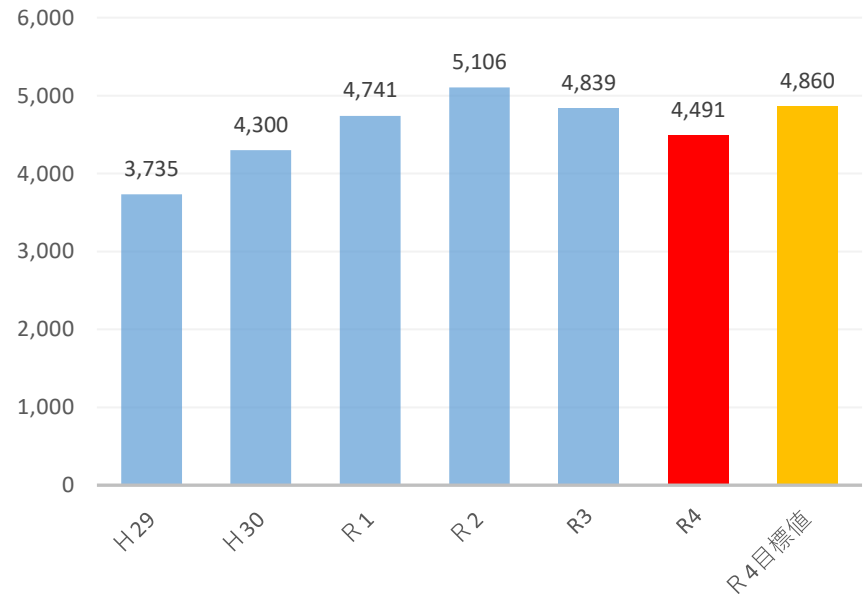
訪問看護実施件数は、体制強化により、昨年度より大幅に増加。
 デイケア実施件数は、コロナの影響（院内クラスター発生等）により減。

■ 精神医療センター

児童思春期延入院患者数（人）



児童思春期延外来患者数（人）

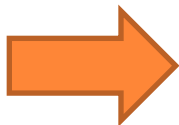


常勤医師の減（現在2人体制）、施設の老朽化・病棟構造（入院時の導線等）などの要因により、患者数が目標を下回っている。

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

- ① 精神科医療の基幹病院として、良質な医療の提供や医療水準の向上を図るため、老朽化した現施設については、必要最低限の修繕を実施。
- ② 新病院の開設に向けて、4病院統合・合築の計画の進展を見極めるとともに新病院の将来像について院内で検討を行った。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



令和4年度自己評価 B

I-1-0 医療機器、施設の計画的な更新・整備（精神C） 2/2

年度報告書 p5~6

項目別評価総括表 I-1-0

◇精神医療センターでは、下記のとおり計画的に医療機器や施設の更新・整備を行った。

	H30	R1	R2	R3	R4
精神C	医療情報システム、錠剤分包機、散剤分包機等の更新	多項目自動血球分析装置、解析付検査装置等の更新	脳波計、冷温蔵配膳車等の更新	超音波診断装、電解質分析装置、食器洗浄機、セントラルモニター一式、医療情報系LAN用PC更新	情報系LAN用パソコン等一式、生理検査システム、公用自動車（3台）、薬品冷蔵庫（2台）、診療材料キャビネット（7台）、ティーサーバー更新

薬品冷蔵庫



公用自動車（訪問看護等に活用）



【令和4年度の実施状況及び自己評価】

- ① 地域医療連携室を中心に連携病院及びその他関連機関と連携を推進し、退院支援につなげる地域連携クリティカルパスに準じた対応に努めた。
- ② 民間では対応困難な措置入院や医療保護入院などといった救急・急性期の患者受入を行っている。紹介率は目標を下回った。
- ③ 地域医療連携室を中心に、連携病院及びその他関係機関と連携を推進し、受診・入院の受入、地域移行・地域定着支援を図り、逆紹介率については目標を上回った。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした



令和4年度自己評価 B

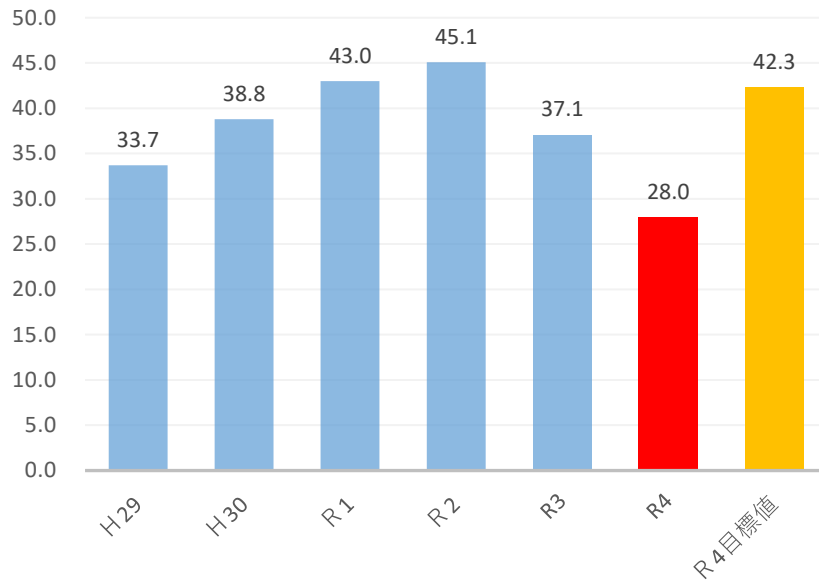
I-1-18 地域医療への貢献（精神C） 2/2

年度報告書 p5~8

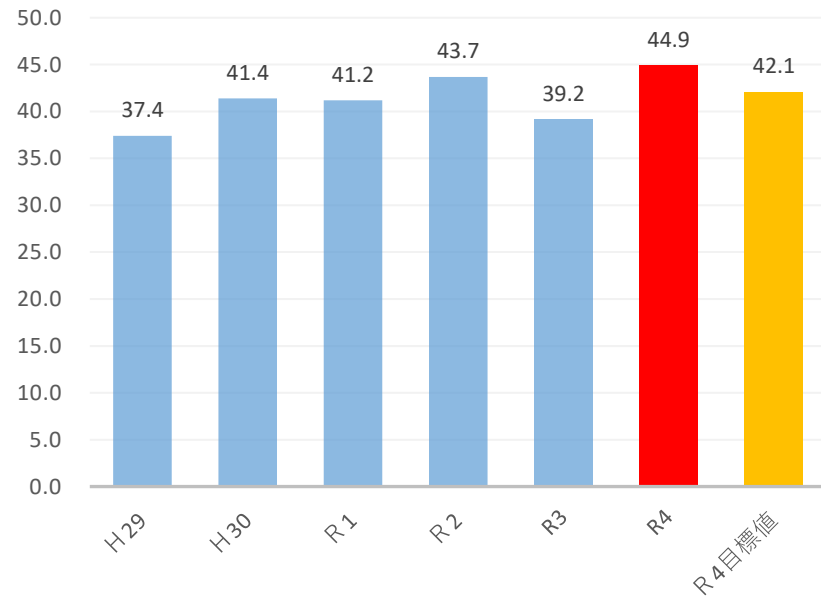
項目別評価総括表 I-1-18

■ 精神医療センター

紹介率 (%)



逆紹介率 (%)



地域医療連携室を中心に、連携病院及びその他関係機関と連携を推進し地域移行・地域定着支援を図り逆紹介率は増加。

【令和4年度の取組状況及び自己評価】

① 調査・研究の推進

- ・国際疾病分類法に則した統計データや、入院患者の在院期間別構成等その他臨床指標の統計データを統計集として院内で情報共有化を図った。

② 広報活動等の実施

- ・市町村等行政機関へ赴き、県民及び支援者を対象とした相談会を実施。毎年開催している県民公開講座は3月に開催した。

③ 学会等への積極的参加と情報発信など

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が継続したため、学会参加者数は減少しているが、学会発表は大幅に増加した。（学会発表 R3：8件 R4：14件）

以上を踏まえ、目標を達成しており年度評価は「B」とした。



令和4年度自己評価 B

【令和4年度の実施状況及び自己評価 1/3】

集学的治療の一層の促進

がんの種類や患者の状況に応じ、手術・放射線治療・化学療法による最適な治療を実施

- 手術件数：1,671件（うち高性能手術支援ロボットでの手術件数：210件）
- 放射線治療件数：17,381件 • 化学療法室使用件数：7,865件 （スライド30, 31参照）

がんゲノム医療に関する取組

遺伝子パネル検査出庫数：57件（前年+8件）

→ がんゲノム医療拠点病院の指定を目指し、検査数増に向けて診療科へ働きかけ。

※ 指定は実現しなかったが、今後、さらに症例数を増やしつつ、より質の高いがんゲノム医療に取り組むための体制整備を検討

「がんゲノム医療」とは？

◇ がんに関係する100種類以上の遺伝子を一度に調査してどのような変化があるのかを明らかにすることで、一人一人のがんの特徴やその原因を分析して、がん細胞に応じた治療薬を見つけ出す医療のこと。

【令和4年度の実施状況及び自己評価 2/3】

緩和ケアの充実

緩和ケアチームによる対応件数：459件（スライド33参照）

患者相談支援の取組

相談員の質の担保

→ 認定がん専門相談員として必要な研修の受講、相談員指導者研修1名修了

がん登録の質的向上への取組

中級認定者の複数配置を実現

- ・がん登録実務者育成支援事業：県内の他の拠点病院の院内がん登録実務中級認定試験合格に貢献
- ・協議会がん登録部会での取組（研修会6回）

宮城県がん診療連携協議会での役割

4つの専門部会で部会長を務めるなど中心的な役割を担った。

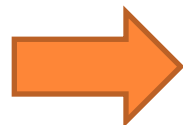
【令和4年度の実施状況及び自己評価 3/3】

研究所の実施

大学と連携を図りながら、医療水準向上に向けた基礎及び臨床研究を実施。
科研費採択件数・金額は目標を上回った。研究成果については、学会等にて幅広く発信している。

- ◇ 東北大学の大学院生11名が活発な研究を行っている。
- ◇ 「国立研究開発法人日本医療研究開発機構（略称：AMED）」の事業において、昨年度採択された2件の研究が順調に進捗。また、海外企業1社とライセンス契約を提携し、他1社ともライセンス契約を結ぶ見込み。
- ◇ 今年度は「がんセンターセミナー」を開催した。

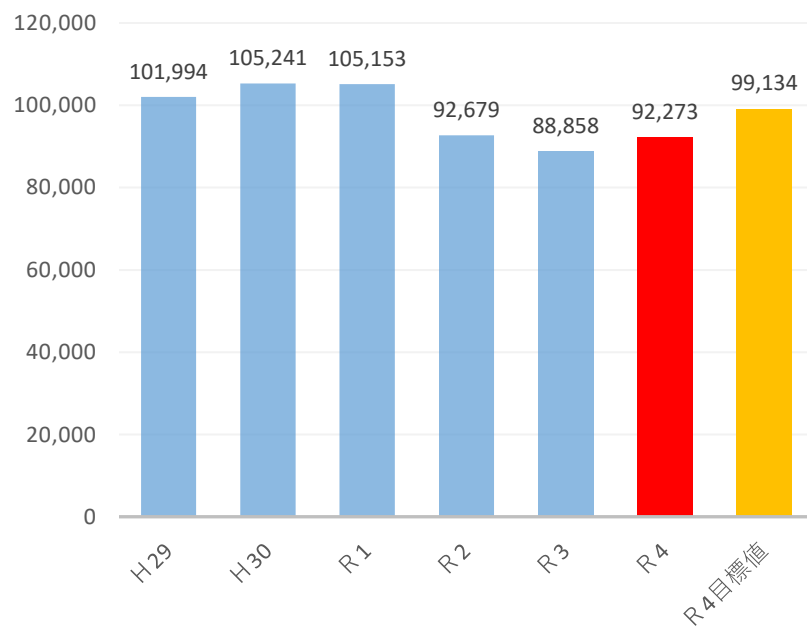
以上を踏まえ、目標をはるかに上回る成果が得られており、年度評価は「A」とした。



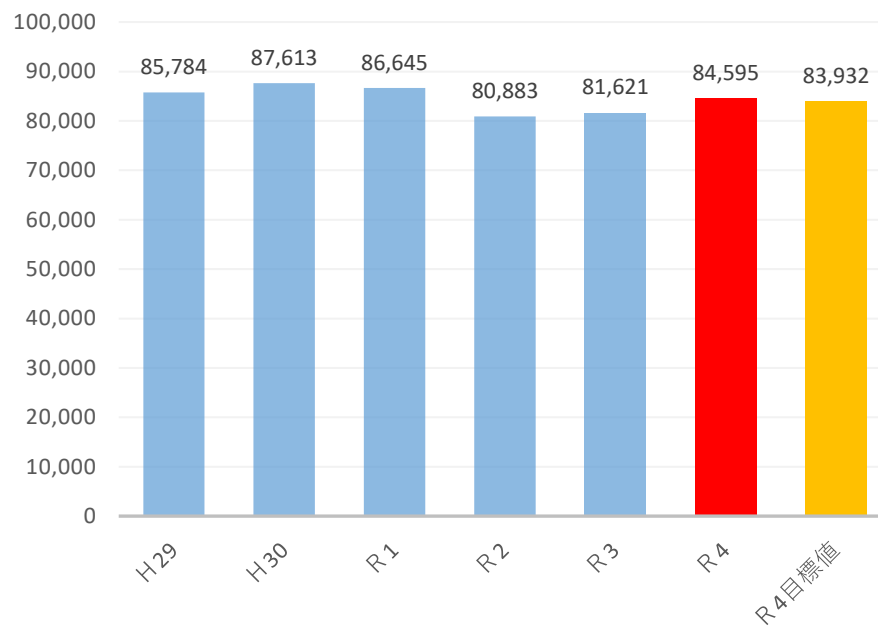
令和4年度自己評価 A

■ がんセンター

入院患者数（病院全体）



外来患者数（病院全体）



新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどの傾向が続いている中、入院・外来とも患者数は昨年度よりも増加した。

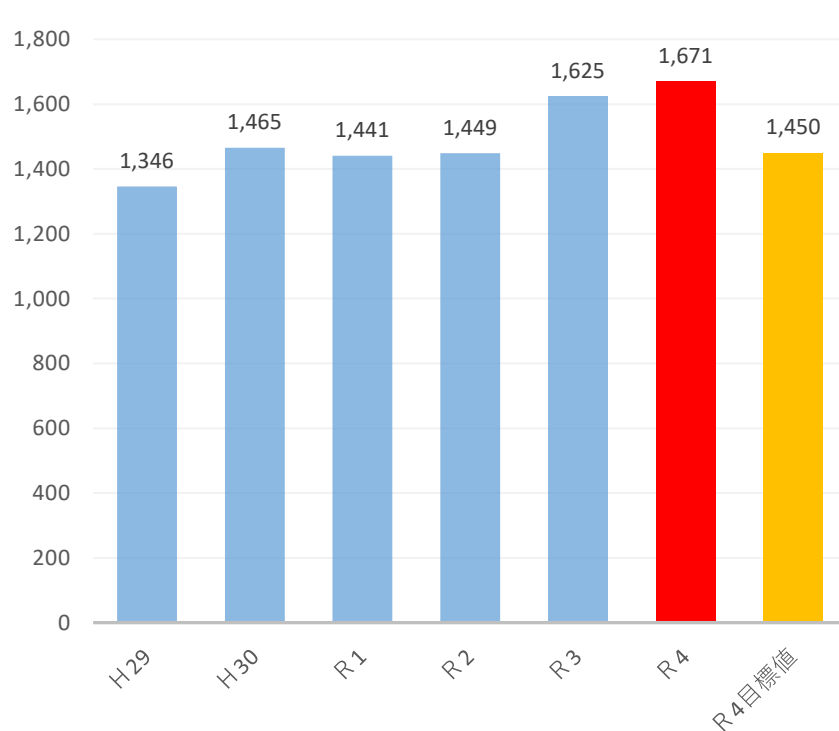
I-1-1 政策医療、高度・専門医療の確実な提供（がんC）5/11

年度報告書 p9~10

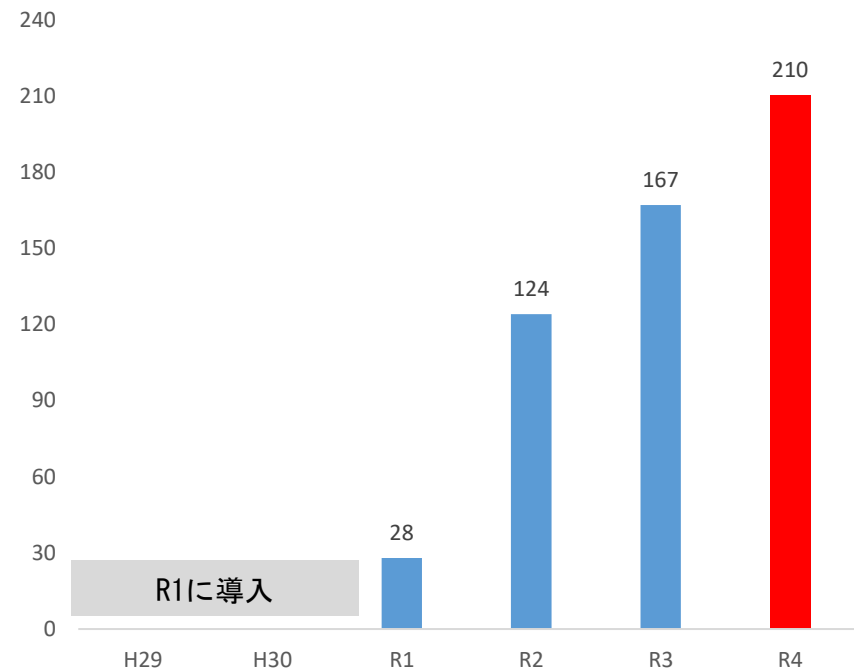
項目別評価総括表 I-1-1

■ がんセンター

手術件数（件）

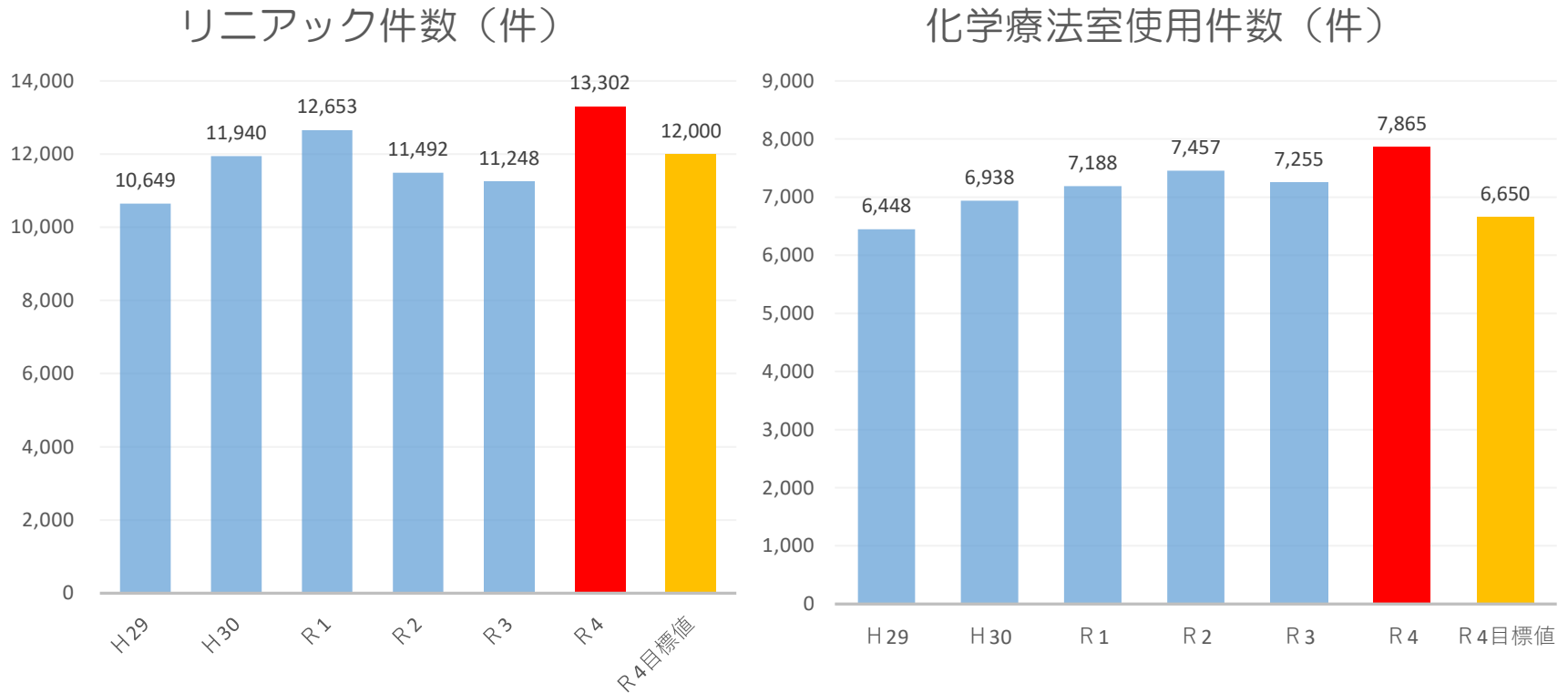


高性能手術支援ロボットによる手術件数（件）



手術件数は増加。特に高性能手術支援ロボット（ダヴィンチ）による手術件数は毎年増加している。

■ がんセンター



リンアックと化学療法室使用件数は昨年度より増加した。

■ がんセンター

◇がんゲノム医療の推進のため、東北大学のエキスパートパネル(注)にリモートで参加。



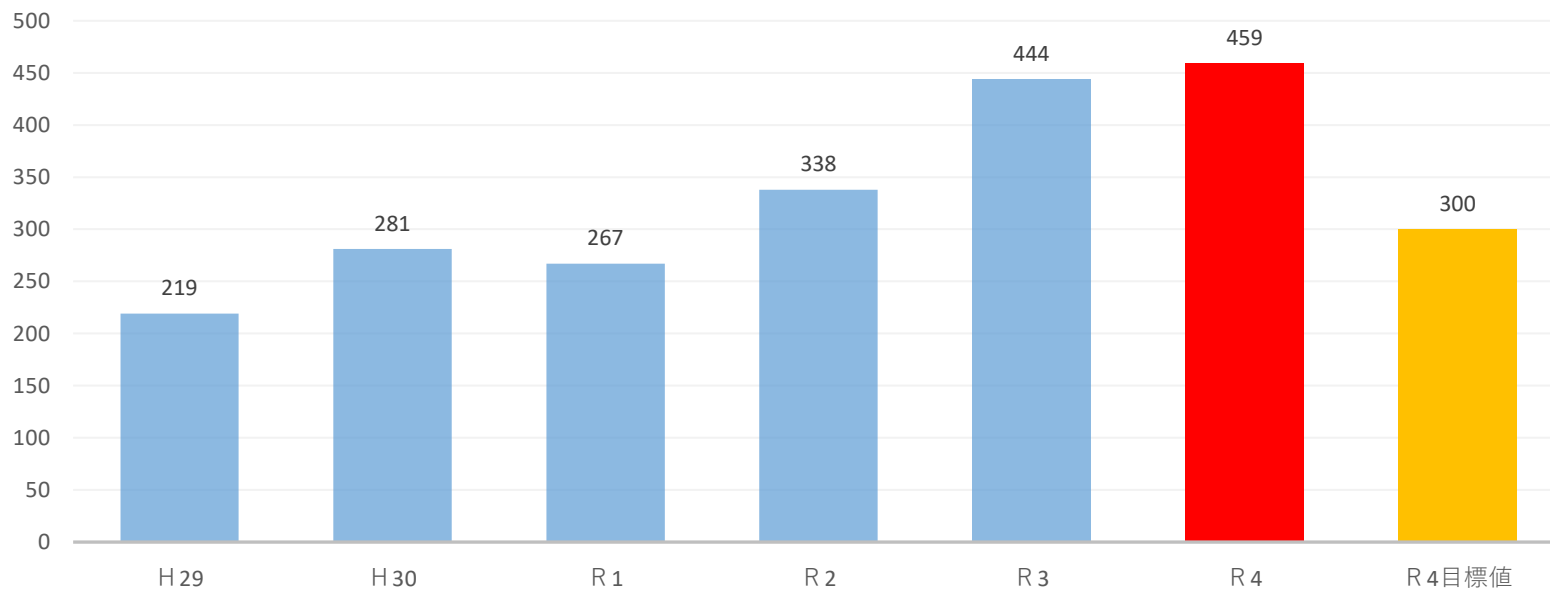
(注)エキスパートパネルとは？

◇がんゲノム医療において、患者のがん遺伝子を解析する遺伝子パネル検査の検討会のこと。

◇東北大学とオンラインでつないで、会議が行われている。

■ がんセンター

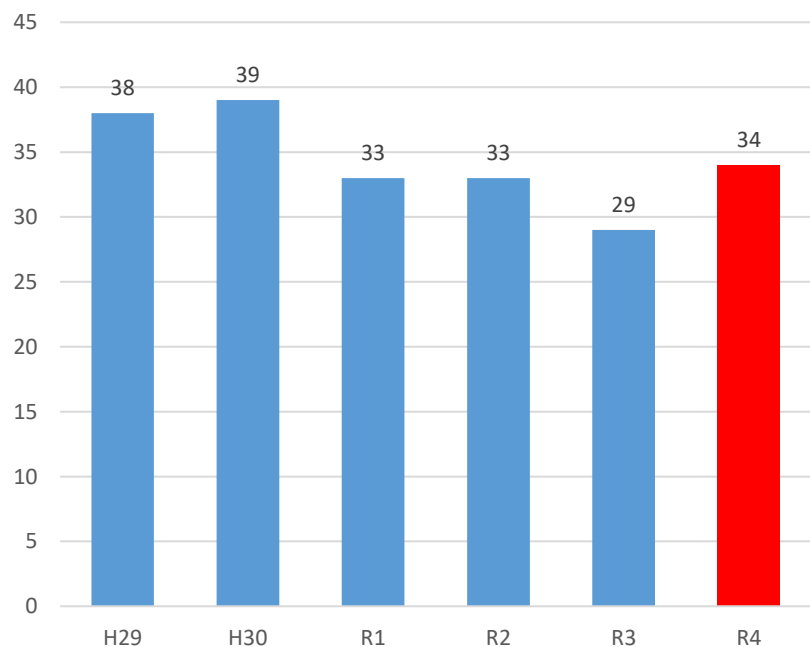
緩和ケアチームによる対応件数（件）



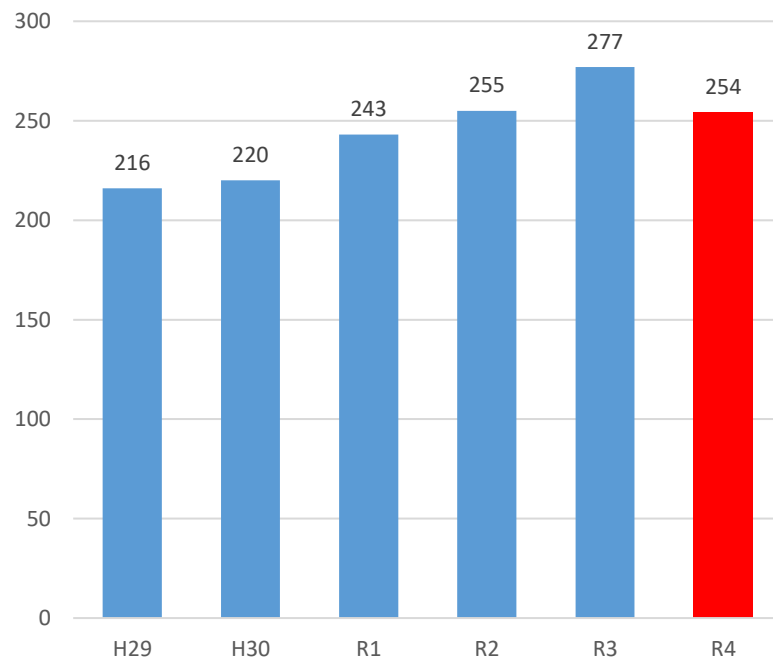
緩和ケアチームでは週1回カンファレンスを行い、緩和ケアの推進に尽力。対応件数は高水準を維持している。

■ がんセンター

治験実施件数（件）



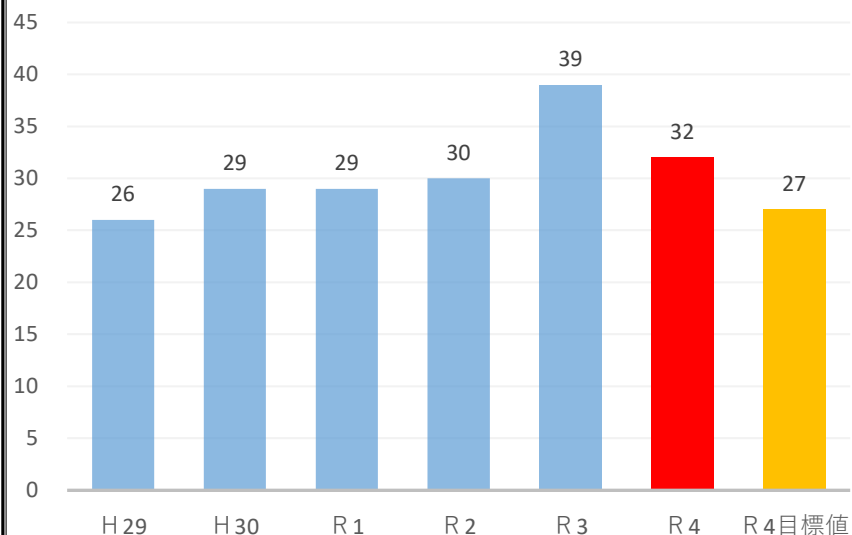
臨床研究実施件数（件）



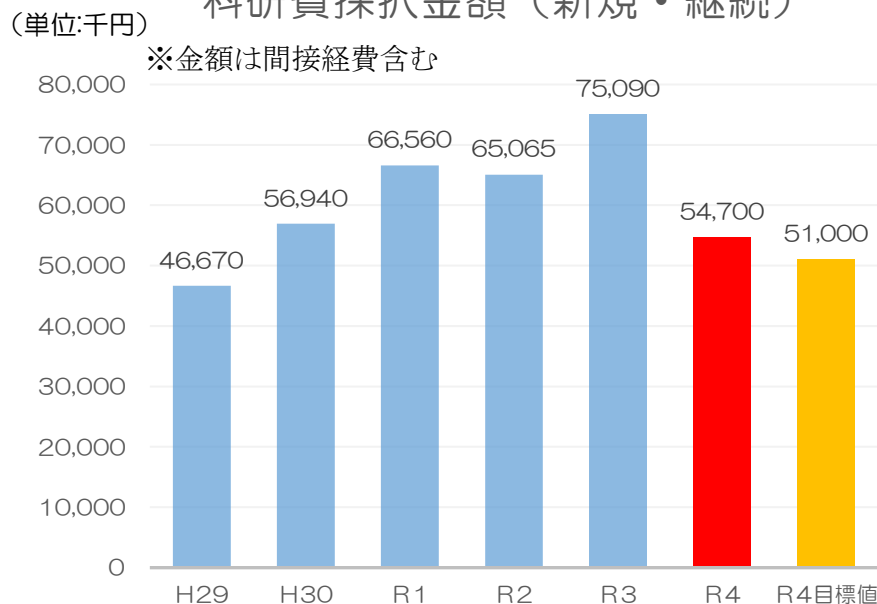
院内における治験・臨床研究等を積極的に実施。治験実施件数は増加。

■ がんセンター（研究所実績）

科研費採択件数（新規・継続）



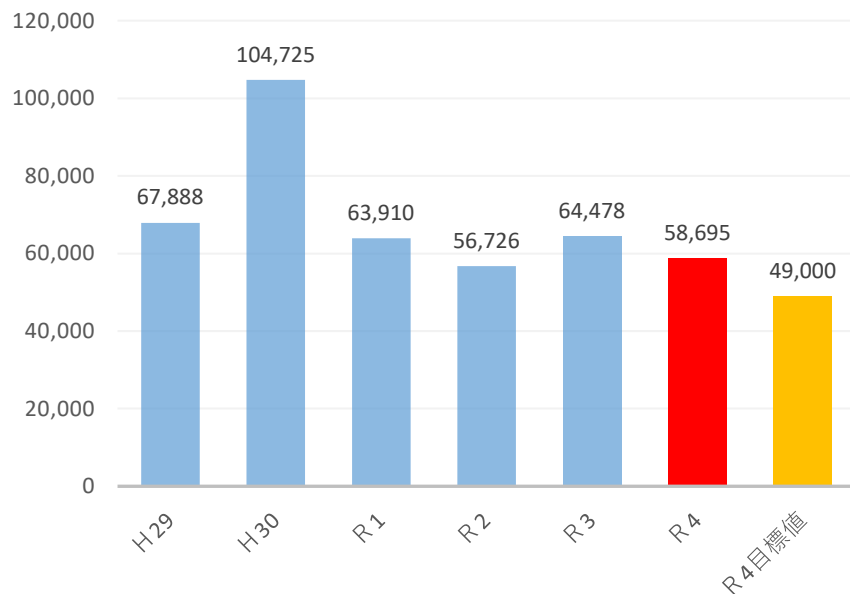
科研費採択金額（新規・継続）



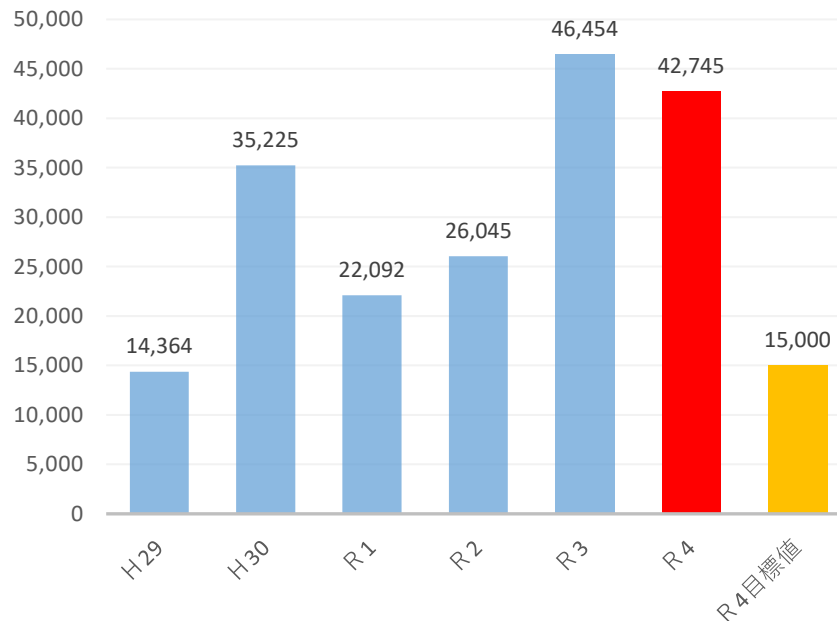
科研費の採択件数、金額ともに目標を達成。

■ がんセンター（研究所実績）

科研費を除いた外部資金獲得金額
(単位:千円) (新規・継続)



うちAMED獲得金額
(単位:千円) ※金額は間接経費含む



科研費を除いた外部資金においても、目標を達成。

I-1-□ 医療機器、施設の計画的な更新・整備（がんC）1/2

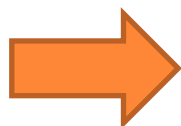
年度報告書 p15~16

項目別評価総括表 I-1-□

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

- ① 高度・専門医療を担う県立病院として、良質な医療の提供や医療水準の向上を図るため、経営健全化の観点から収支バランスを考慮し、計画的な医療機器等の更新・導入及び施設の整備を行った。また、コロナ関係で予定にない機器の緊急整備や末梢血幹細胞採取施設整備費にて造血幹細胞測定装置を整備した。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



令和4年度自己評価 B

I-1-□ 医療機器、施設の計画的な更新・整備（がんC）2/2

年度報告書 p15~16

項目別評価総括表 I-1-□

◇がんセンターでは下記のとおり、計画的に医療機器や施設の更新・整備を行った。

	H30	R1	R2	R3	R4
がんC	CTや生化学分析装置等の検査装置の更新, 空調設備やストレッチャーガード等の更新工事等	高性能手術支援ロボット, 3D内視鏡手術システム, 動物用イメージング器, 自動免疫染色装置等の導入, 手術台の更新, 空調自動制御器更新工事, エアハンドリングユニット工事, 駐車場増設工事等	機器: 注射薬自動払出システム, 手術顕微鏡, 超音波画像診断装置, MRI-超音波融合画像診断システム「BioJet」等の更新 工事: 吸収式冷凍機, 直流電源装置の蓄電池更新	機器: 生体情報モニター(4F東・西病棟), 超音波診断装置「EPIQ Elite」, 自動細胞解析分取装置(セルソーター) 工事: CVCF・VCB電源装置更新	機器: 電子カルテシステム, 乳房撮影装置 工事: 照明LED(中央監視室), 看護外来ブース設置

電子カルテシステム・サーバー



乳房撮影装置



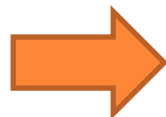
【令和4年度の取組状況及び自己評価】

- ① 地域医療との新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、参加者を制限した上で、対面により退院前カンファレンス・介護認定調査を実施。
- ② 地域に密着したがん広報の充実
 - ・「FMなとり」（なとらじ）でのがん情報ラジオ放送。
 - ・がんセンター広報誌「せりなべ」の充実を図り、年4回発行。
⇒地域医療機関の紹介ページを増やし公共機関への配布を実施。
 - 全国広報コンクール（（公社）日本広報協会主催）で**入選**
 - ・名取市図書館内の情報コーナー設置を継続。
- ③ 患者の紹介率は目標達成率111.8%、逆紹介率は目標達成率114.7%とどちらも目標大きく上回った。

広報誌「せりなべ」



以上を踏まえ、目標をはるかに上回る成果が得られており、年度評価は「A」とした。



令和4年度自己評価 A

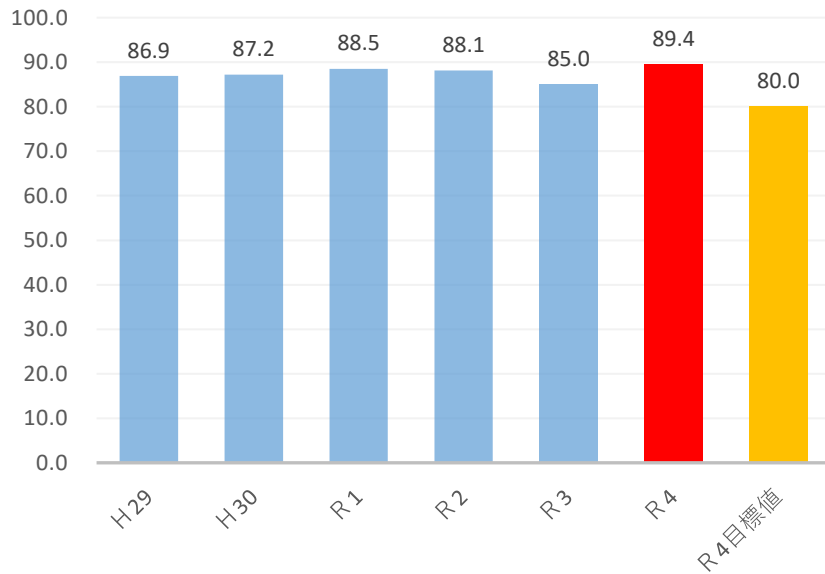
I-1-8 地域医療への貢献（がんC） 2/2

年度報告書 p15~16

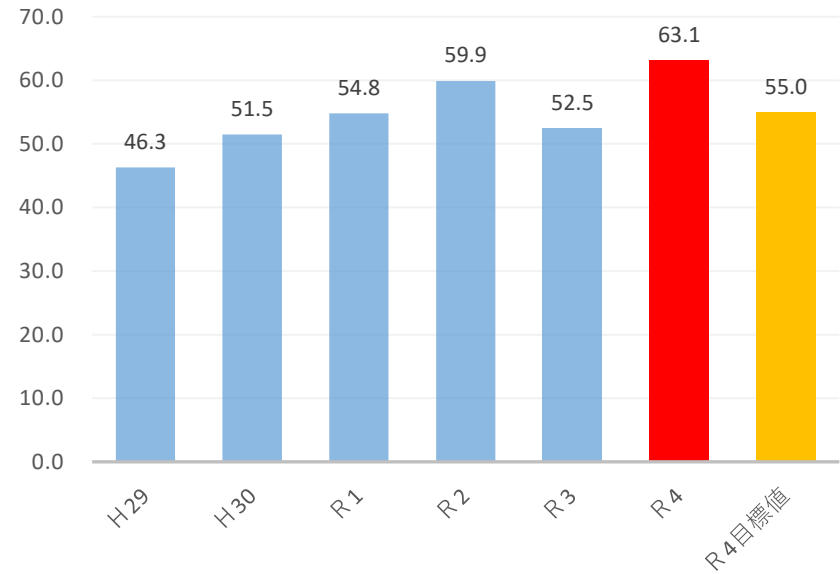
項目別評価総括表 I-1-8

■ がんセンター

紹介率：歯科を除く（％）



逆紹介率（％）



紹介率・逆紹介率ともに昨年度よりも増加。

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

① 院内がん登録室の活動

- 調査、集計した結果を院内で共有・活用。
- 国立がんセンターや外部機関が行う調査に調査結果を提供。
- 市町村によるがん登録情報の活用を推進するため、研究所にて、新たに活用を支援する事業を6市町で実施。

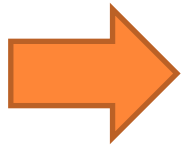
② セミナーの開催と広報活動の実施

- がんセンターセミナーや県民公開講座は、感染対策を徹底して、会場とオンラインでのハイブリッド形式で実施。
- 看護部公開研修会は、YouTubeでのオンデマンド方式で開催。

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

- ③ 学会等への積極的参加と関係機関への情報発信について、新型コロナウイルス感染症の影響が続いていたが、前年度に比べ対面方式による学会等への参加が増加。またコロナ禍においても積極的に専門誌への寄稿を実施。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



令和4年度自己評価 B

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

① 医療安全対策の推進

- ・ヒヤリハット事例等の収集、分析を行い、医療事故発生の防止に努めた。研修の実施と医療安全管理指針、マニュアルの一部改訂を実施（2病院）。
- ・服薬指導を充実するため、個別のケースカンファレンスに参加（精神医療センター）。
- ・入院前薬剤師外来の対象科に乳腺外科と整形外科を加えた。また、退院時薬剤情報連携加算を算定できる体制を整えた（がんセンター）。

② 適切な情報管理

- ・情報セキュリティに関する内部監査を実施し、情報資産の適切な管理に取り組んだ（本部事務局）。

I-2 安全・安心な医療の提供 2/5

年度報告書 p19~24

項目別評価総括表 I-2

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

③ 院内感染症対策の推進 [新型コロナウイルス感染症への対策]

- 新型コロナウイルス感染症に関する対策マニュアルの見直し、ICTラウンドを通じた感染対策意識の向上など、前年に引き続き基本的な感染症対策を徹底。
- 研修会の開催、救急棟での清潔・汚染区域を分けるゾーニングを継続して実施
(精神医療センター)
- 個人防護具の着脱など、個別の研修を実施、また、院内におけるPCR検査体制を整備し、職員及び患者の感染拡大を防ぐ体制を整えている(がんセンター)。
- 全国的な感染拡大の中、両病院においてクラスターが発生

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

クラスターへの対応

- 感染症対策委員会において、感染症マニュアルにクラスター発生時の対応についてを追加（精神医療センター）
 - クラスターの発生に対する具体的な感染防止対策を実践（がんセンター）
※臨床疫学的手法を用いて、院内拡大のリスク因子を特定し、示されたリスク因子に対して対策を展開
- 全国的な感染拡大の中、両病院ともクラスター発生による影響を最小限に留めるよう尽力

I-2 安全・安心な医療の提供 4/5

年度報告書 p19~24

項目別評価総括表 I-2

■ 医療安全対策と院内感染症対策の実績

精神医療センター					
	H30	R1	R2	R3	R4
(1) 医療安全研修実施回数	16	16	14	15	13
(2) 院内感染対策委員会	13	14	14	13	13
(3) 院内感染対策研修会	4	6	4	4	4

がんセンター					
	H30	R1	R2	R3	R4
(1) 医療安全研修実施回数	14	19	22	29	14
(2) 院内感染対策委員会	12	12	12	12	12
(3) 院内感染対策研修会	16	12	12	12	3

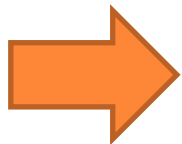
I-2 安全・安心な医療の提供 5/5

年度報告書 p19~24

項目別評価総括表 I-2

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

以上を踏まえ、精神医療センター及びがんセンターは目標を上回る成果が得られており、自己評価は機構全体で「A」とした。



精神医療センター	A
がんセンター	A
本部事務局	B
機構全体	A

【令和4年度の取組状況及び自己評価】

① 精神医療センター

- ・ 行動制限を伴う患者や家族にはより丁寧な説明を実施。
- ・ QOL向上に向けた食事療養、外食チェーン店のメニューの提供。
- ・ 患者の嚥下や摂食機能に合わせた食形態での提供に努め、指導件数が大幅増加。
- ・ 修繕工事等により老朽化した施設の機能維持に加え、CTの整備を行った。

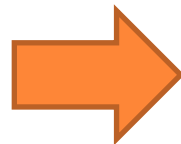
② がんセンター

- ・ 患者の状況に応じた多様な相談支援や患者会支援、患者の視点に立った医療提供。
- ・ 入院中の安全な食事提供のため、アレルギー質問表の運用を開始した。
- ・ 栄養指導件数の大幅増加。
- ・ 前年度に引き続き、令和2年度に増設した駐車場を有効活用している。

③ 本部事務局

- ・ 患者サービスの向上のための接遇研修を実施。

以上を踏まえ、2病院及び本部事務局ともに目標を達成しており、年度評価は機構全体で「B」とした。



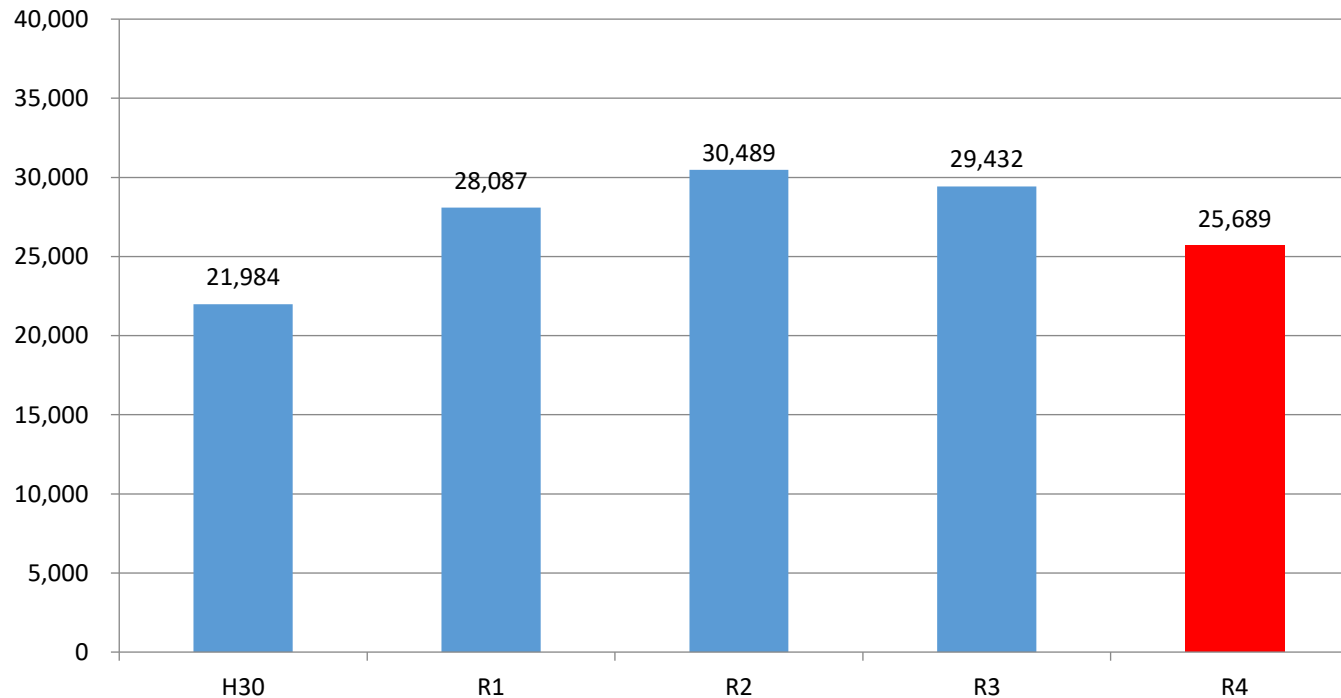
精神医療センター	B
がんセンター	B
本部事務局	B
機構全体	B

I-3 患者や家族の視点に立った医療の提供 2/7

年度報告書 p27~28

項目別評価総括表 I-3

精神医療センター 相談窓口への相談件数



件数は昨年度より減ったが、入院依頼や児童思春期外来の受診相談などに対応したほか、地域移行・地域定着のための相談対応を積極的に行っている。

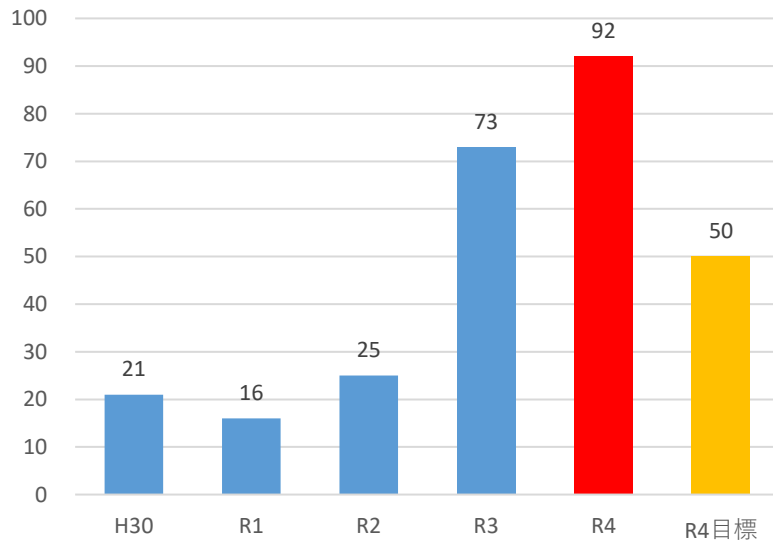
I-3 患者や家族の視点に立った医療の提供 3/7

年度報告書 p29~30

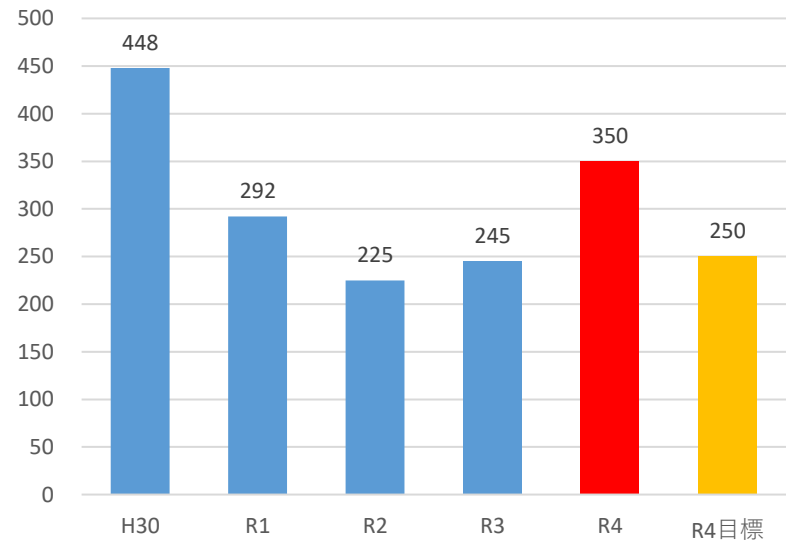
項目別評価総括表 I-3

■ 精神医療センター

入院栄養指導件数（件）



外来栄養指導件数（件）



入院栄養指導件数、外来栄養指導件数ともに増加。

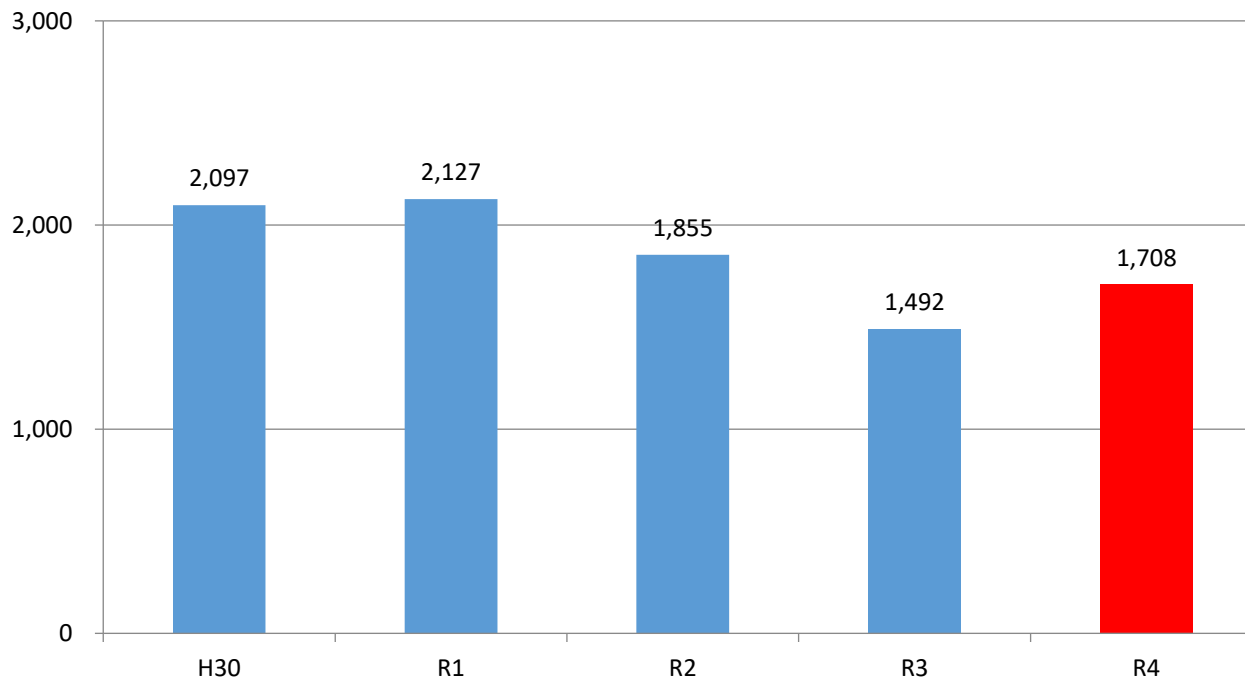
■ 精神医療センター

- 昨年度に引き続き、外食産業とのタイアップ企画として、外食チェーン店のメニューを提供する取組を実施。



■ がんセンター

がんセンター 相談窓口への相談件数



化学療法室で治療をしている患者を対象に相談支援センターから出向しているほか、名取市図書館での講演や出張相談も行っており、件数は昨年度から増加。

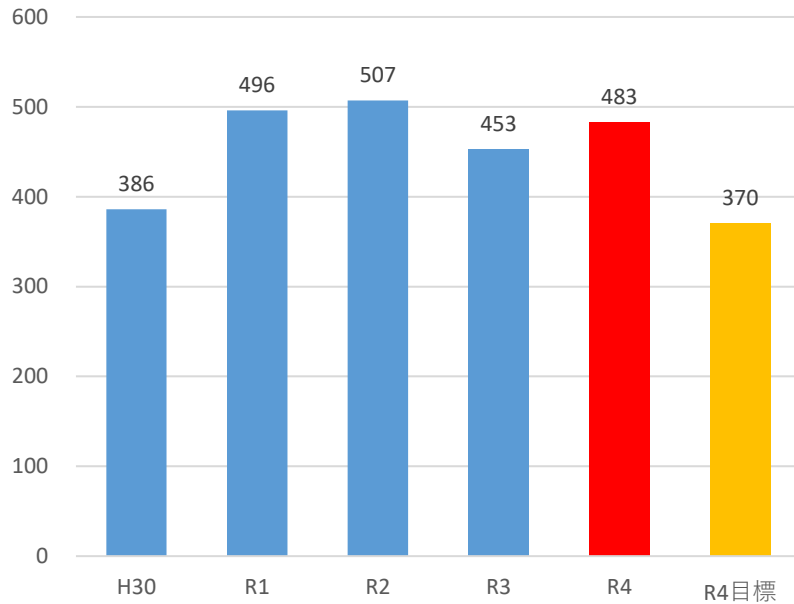
I-3 患者や家族の視点に立った医療の提供 6/7

年度報告書 p29~30

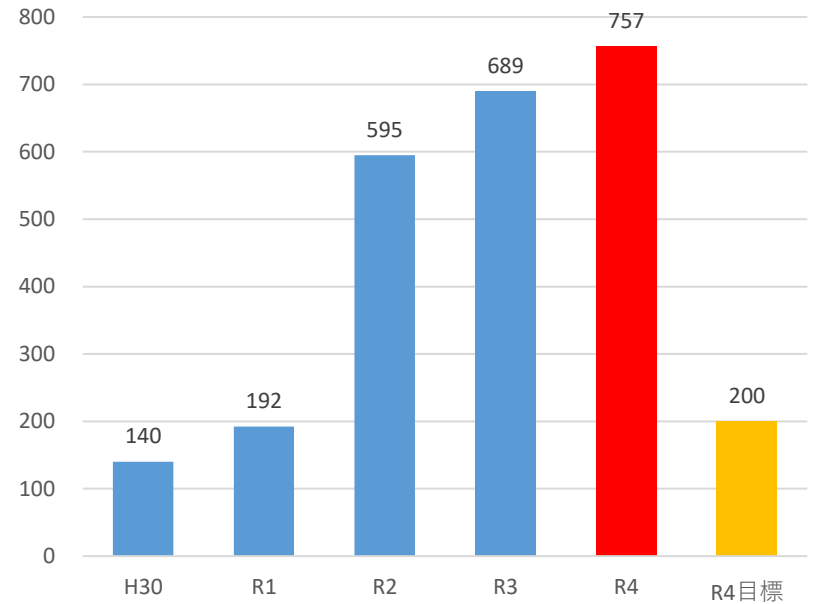
項目別評価総括表 I-3

■ がんセンター

入院栄養指導件数（件）



外来栄養指導件数（件）



入院栄養指導件数、外来栄養指導件数ともに増加。

■ 本部事務局

- 新任職員研修にて接遇に関する講習を実施。

新任職員研修の様子



【令和4年度の取組状況及び自己評価】

① 人材確保の取り組み

- ・宮城大学や仙台市立病院等から研修生を受入れた。
- ・看護師養成校訪問やインターンシップ受け入れなどを通じた積極的な募集活動（看護師や医療従事者の採用など）。
- ・各職種養成機関等に広く募集要項を配布するなどして応募者を確保。

② 研究・教育研修体制の強化

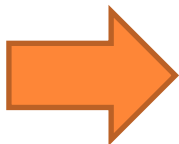
- ・連携大学院講座への学生受け入れ、医療系学生の積極的な受け入れ。

③ 職員の資質向上への取り組み

- ・学会や研修会等への参加を奨励、様々な資格取得への支援。
- ・看護業務検討部会等で研修や事例発表、意見交換を実施。

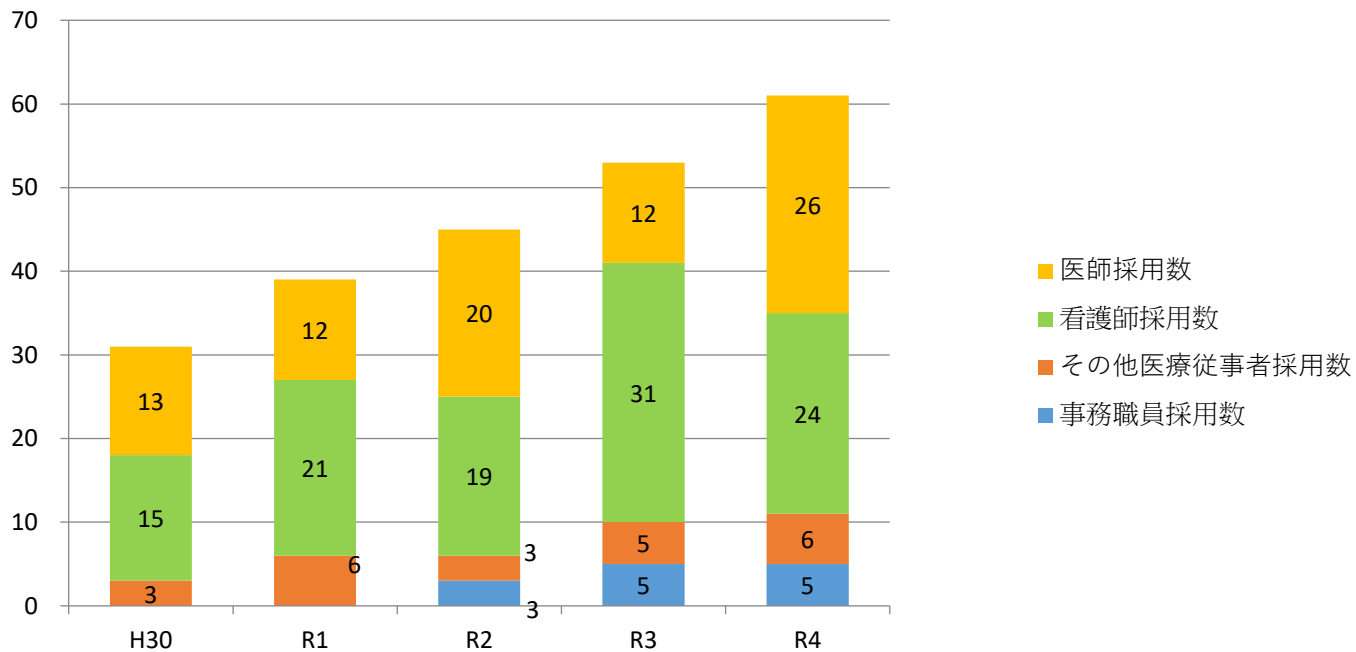
以上を踏まえ、2病院及び本部事務局ともに目標を達成しており、年度評価は機構全体で「B」とした。

精神医療センター	B
がんセンター	B
本部事務局	B
機構全体	B



■ 本部の取組状況

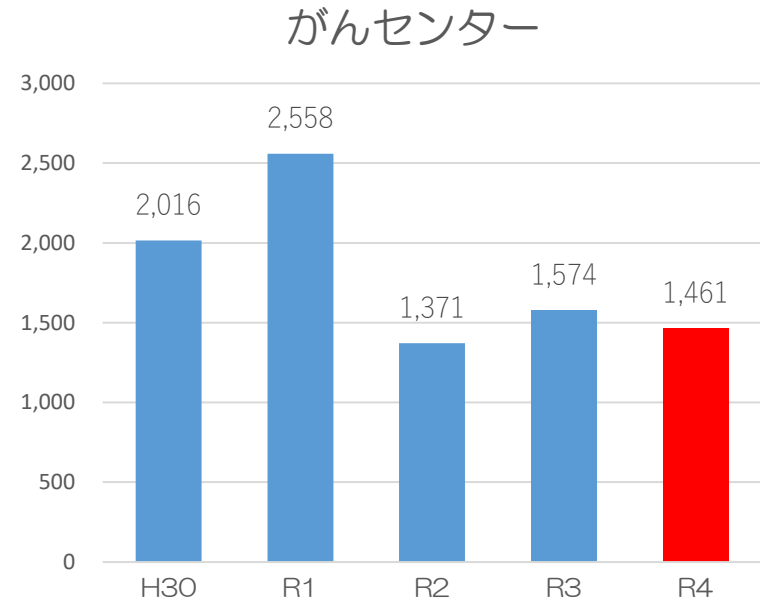
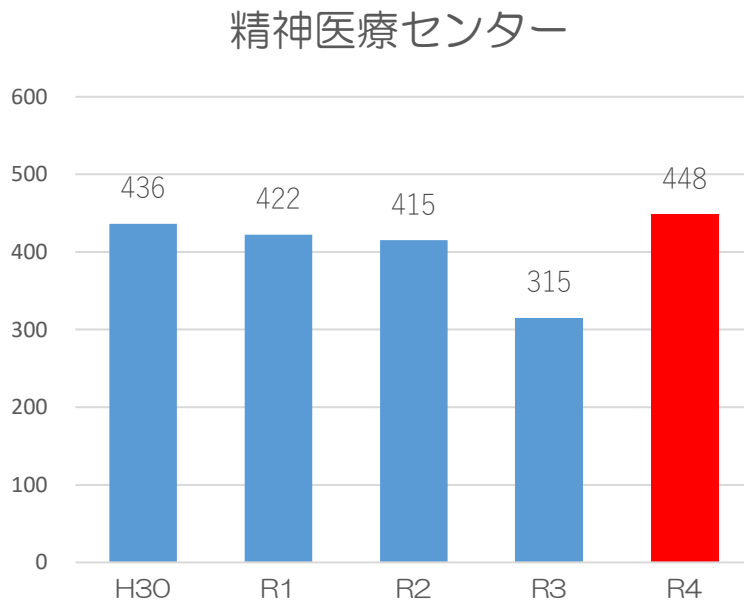
医師、医療従事者、事務職員採用数



医師、看護師等の医療従事者を確保するため、積極的な採用活動を実施。

■ 2病院の取組状況

医療系学生の受入数（人・延べ）



新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、看護学生や実習生の実践能力の向上に貢献。精神医療センターでは前年よりも増加。

I-4 人材の確保と育成 4/4

年度報告書 p31~p36

項目別評価総括表 I-4

■ 各種認定資格等の保有者数（R5.3.31時点）（延べ人数）

医師資格保有者数（専門医，研修指導医等）	
◇精神医療センター	43人
◇がんセンター	208人

看護師資格保有者数（認定看護師，専門看護師）	
◇精神医療センター	5人
◇がんセンター	17人

医療従事者資格保有者数（放射線管理士，超音波検査士等）	
◇精神医療センター	33人
◇がんセンター	124人

事務職資格保有者数（診療情報管理士）	
◇機構全体	17人

【令和4年度の実施状況と自己評価】

① 2病院と本部事務局

- 防災訓練や災害時における通信訓練の実施。
- 備蓄食料の適正管理などを実施。

② 精神医療センター

- DPAT（災害派遣精神医療チーム）訓練に職員が参加し、大規模災害時の派遣体制を強化。
- 関係機関との情報共有に努め、災害支援の相互連携を強化。

③がんセンター

- 防火・防災訓練を2回実施。
- 新たに防災・業務継続計画（BCP）を作成した。

【令和4年度の取組状況と自己評価】

④ 新型コロナウイルス感染症に関する取組

職員派遣

名取市新型コロナウイルスワクチン集団接種

職種	期間	延べ人数	業務内容
医師	R4.4~R5.1	266人	予診（問診），体調不良者への処置・対応等

ワクチン接種の実施

アストラゼネカ社ワクチン接種

実施場所	がんセンター
対象者	海外でアストラゼネカ社ワクチンを1回接種済みの方
実施人数	7人

他医療機関との連携

精神医療センターでは、他医療機関のクラスター発生時に看護師の応援対応を行うとともに、感染疑いのある患者の措置入院要請に対する対応を実施。

【令和4年度の取組状況と自己評価】

新型コロナウイルス感染症患者の受入

	精神医療センター (東1病棟)	がんセンター (南病棟)
病床数	R4.8.16~8.31 5床 R4.9.1~ 8床	~R5.1.22 10床 R5.1.23~2.19 11床 R5.2.20~ 10床
受入患者数	延べ137人	延べ1,968人
稼働率	9.0%	55.4%

精神医療センター：令和4年8月16日から精神疾患を有する軽症・中等症Ⅰの陽性者を受入

※ 東1病棟を新型コロナ専用病棟に改修

がんセンター：令和3年度に引き続き感染症患者を受入

※ 緩和ケア病棟を新型コロナ専用病棟に転用

→ 専門病院の特殊性や施設状態（構造や老朽化）により感染症患者の受入に対応できる環境になかったが、病棟の改修・転用等を実施し、可能な限りの患者に対応した。

I-5 災害等への対応 4/4

年度報告書 p35~p36

項目別評価総括表 I-5

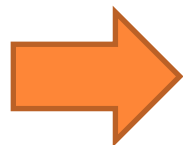
【令和4年度の実績と自己評価】

(参考) 患者受入月別実績

単位：人

	令和4年										令和5年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
精神	-	-	-	-	19	41	0	28	34	8	7	0	137	
がん	148	135	87	162	204	170	203	194	229	225	102	109	1,968	

新型コロナウイルス感染症に対しては、職員派遣や患者受入により、機構全体として、宮城県の対策に大きく貢献していることから、目標をはるかに上回る成果が得られており、年度評価は「A」とした。



精神医療センター	A
がんセンター	A
本部事務局	A
機構全体	A

【令和4年度の取組状況及び自己評価】

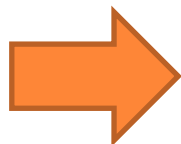
① 2病院

- 定期的に運営会議や診療科長会議等を開催し、病院経営に関する情報の共有化や課題検討を実施。
- 患者満足度調査等を実施して業務改善に努めた。

② 本部事務局

- 理事会や理事長・院長等会議を主催し、経営状況や計画の進行状況を把握。
- 各病院との意見交換会を開催し、経営状況の改善に努めた。
- 職員の経営意識向上への取り組みとして、理事長等が各病院を訪問して経営状況説明会と意見交換会を開催。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。

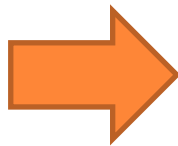


機構全体 B

【令和４年度の取組状況及び自己評価（精神医療センター）】

- ① 「レセプト委員会」を開催し、査定内容の確認や対策の検討を実施。
- ② 精神科救急システム事業を県から受託し、収益確保に努めた。
- ③ 未収金の削減に向けた取り組み
 - ・ 医事事務嘱託員等が家族や保証人も含めて積極的に働きかけを実施。
 - ・ 特に回収困難な案件はその回収業務を弁護士に委託。
- ④ 外来延患者数・外来収益合計は目標を上回った。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



精神医療センター B

【令和４年度の取組状況及び自己評価（がんセンター）】

① 収益確保への取り組み

- ・後発品へ切り替えた場合に粗利及びジェネリック率の改善が見込める薬剤を抽出し、薬剤部等へ情報提供を行った。
- ・経営分析システムを活用し、収益確保に努めた。

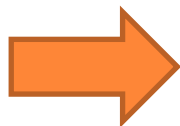
② 急性期看護補助体制加算を50対1から25対1にランクアップした。

③ レセプト査定率改善、未収金対策

- ・レセプトの返戻・査定事例を精査して各部門に周知。
- ・各部門との連携により、未収金の発生可能性のあるケースに早期対応。

④ 入院・外来収益ともに目標は下回る結果となったものの、コロナ禍においても収益の確保に努め、外来延患者数は目標を上回った。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



がんセンター B

Ⅱ－２ 収益確保の取組 3/6

年度報告書 p39～42

項目別評価総括表Ⅱ－２

■ 個人未収金の状況

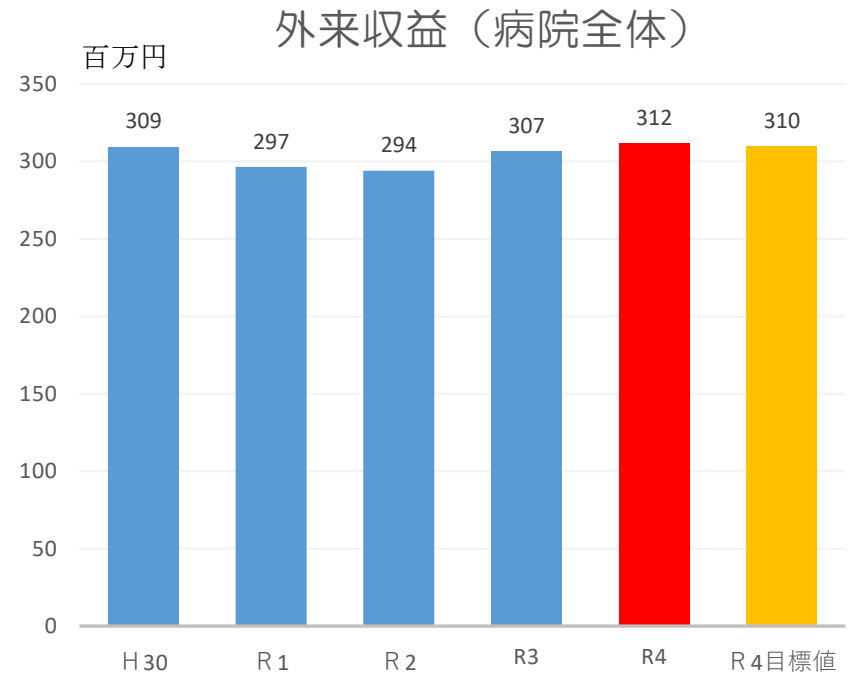
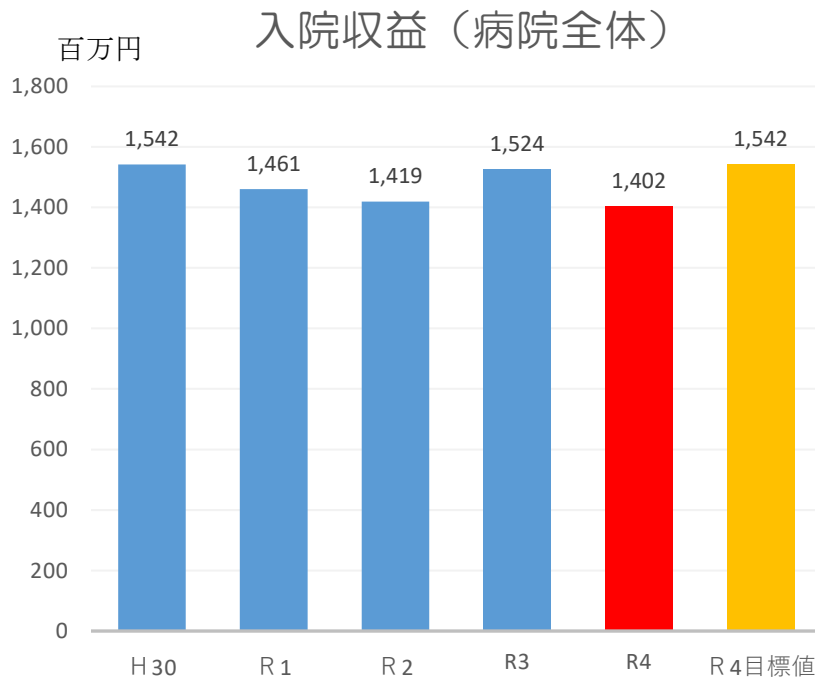
単位：千円

過年度未収金額	H30	R1		R2		R3		R4	
精神医療センター	22,460	20,881		21,911		21,945		18,752	
がんセンター	6,143	5,431		7,365		7,171		8,781	
循環器・呼吸器病センター	934	本部	456	本部	130	本部	70	本部	25
本部（こども病院分）	1,479		1,057		945		555		415
合計	31,016	27,825		30,351		29,741		27,973	

※R1年度より、循環器・呼吸器病センター分の未収金を本部事務局で承継。

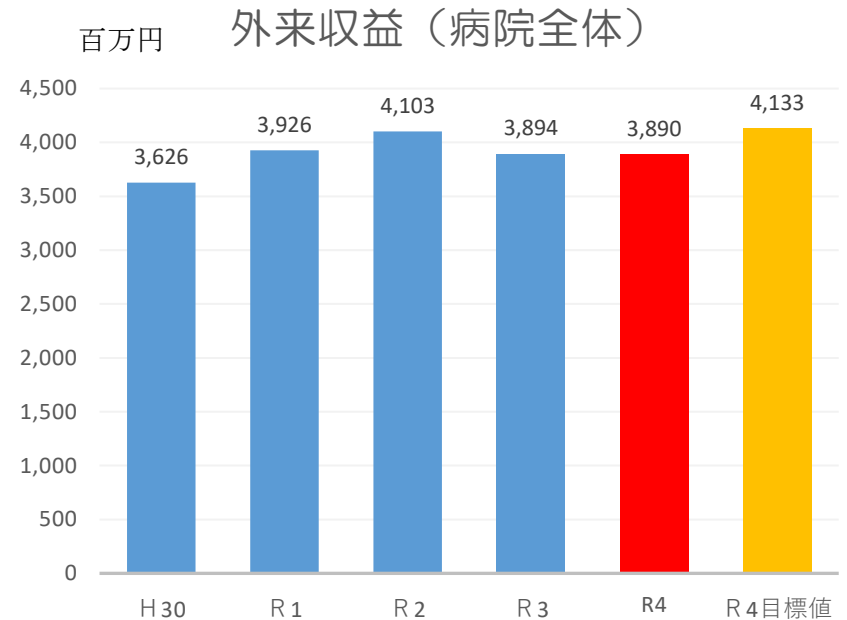
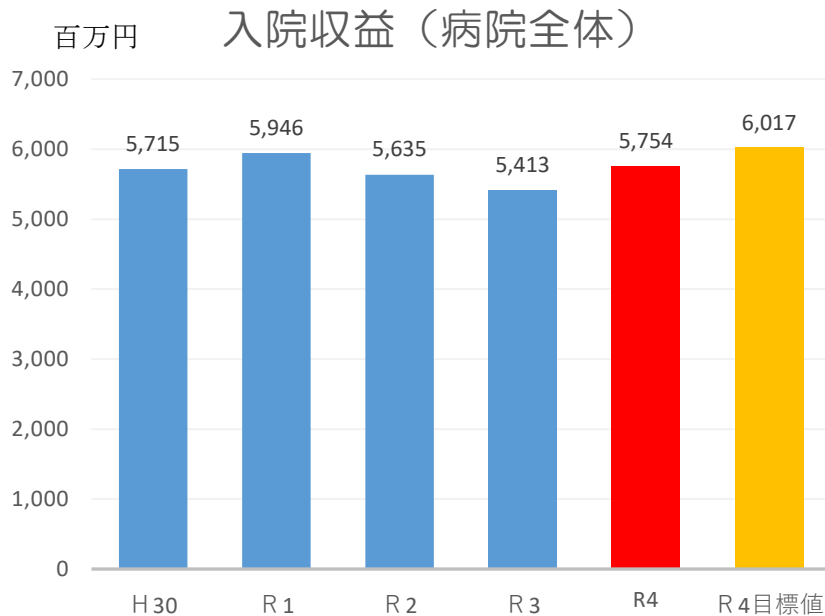
未収金の発生防止と早期回収に努めたほか、債権回収が困難な案件を法律事務所に委託し、未収金残高の縮減を図った。

■ 精神医療センター



外来収益は昨年を上回り、目標を達成した。

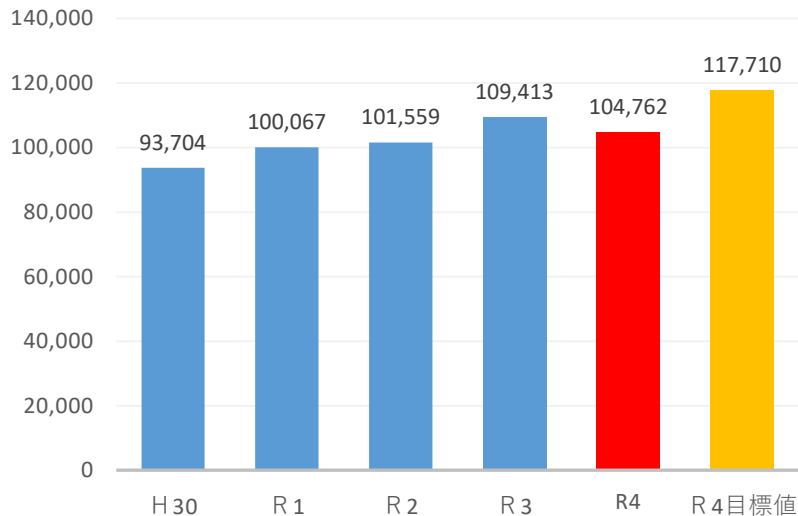
■ がんセンター



入院・外来収益ともに目標を下回る結果となったものの、コロナ禍においても収益の確保に努めた。

■ がんセンターの特別室

特別室料の推移（千円）



特別室（SB室）



特別室料収益は目標を下回ったものの、特別室により患者の療養環境の質的向上を図るとともに、特別室料の収入増に努めている。

【令和４年度を取組状況及び自己評価】

① 精神医療センター

- ・ 一般競争入札やオープンカウンター方式の積極的な導入により競争性を確保。
- ・ 複数年契約など有利な契約方法の選定を実施。
- ・ 医薬品については毎月在庫確認を実施し、また棚卸も行うことで、適正な管理に努めた。
- ・ 薬事委員会での検討や品目数の削減を実施。

② がんセンター

- ・ 一般競争入札、オープンカウンターを推進。
- ・ プロポーザル方式による業者選定、複数年契約など有利な契約方法を選定し実施。
- ・ 医薬品等については、定期的な棚卸や病棟等の定数見直しを行うことで、適正な在庫管理に努めた。
- ・ 医薬品について、契約している業者と価格交渉を行い経費の削減に努めた。

Ⅱ－３ 経費削減への取組 2/3

年度報告書 p43～44

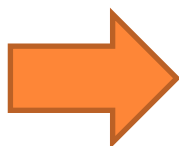
項目別評価総括表Ⅱ－３

【令和４年度の取組状況及び自己評価】

③ 本部事務局

- ・ 契約に際しては、一般競争入札やオープンカウンター、複数年契約など多様な契約方法により経費節減に努めた。
- ・ 例年実施しているA重油やLPG、コピー用紙の一括入札に加え、医事業務も一括契約を行うなど、スケールメリットを生かした経費の削減に取り組んだ。

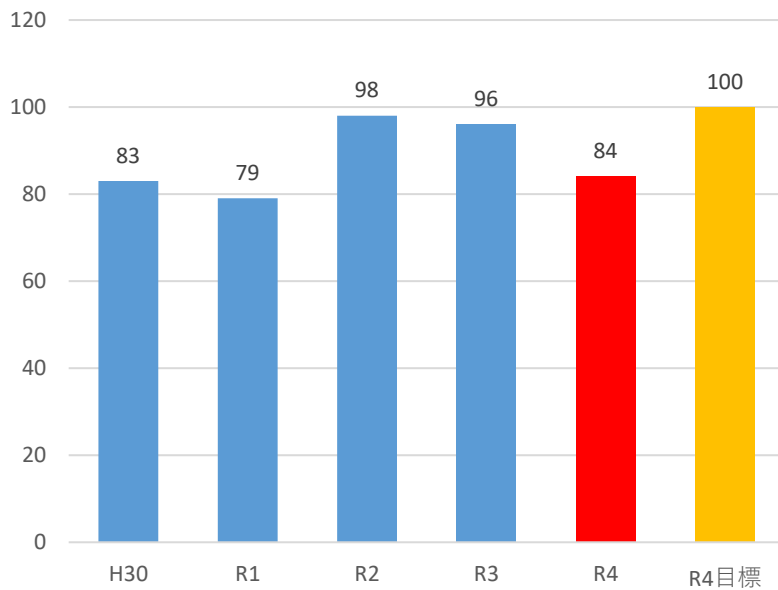
以上を踏まえ、２病院及び本部事務局ともに目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



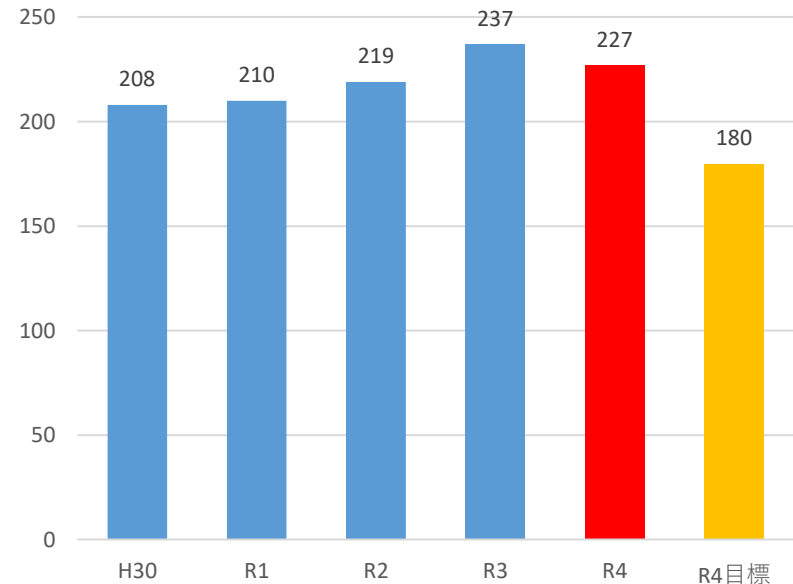
精神医療センター	B
がんセンター	B
本部事務局	B

■ 後発医薬品の使用状況

精神：後発医薬品使用品目数



がん：後発医薬品使用品目数



がんセンターにおいて目標を達成した。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金収支計画

1 経常収支比率の均衡 1/2

年度報告書 p45~46

項目別評価総括表Ⅲ-1

◇ 令和4年度の経常収支比率（機構全体）は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、新型コロナウイルスに係る補助金の受入等により、100.8%と目標を達成した。

経常収支比率（%）	H30	R1	R2	R3	R4
機構全体	103.2	102.0	99.4	103.4	100.8 (100.3)
精神医療センター	101.9	98.9	100.9	106.0	110.4 (102.9)
がんセンター	103.4	104.0	100.4	104.3	100.0 (101.1)

※（ ）内は年度計画の目標値

Ⅲ 予算、収支計画及び資金収支計画

1 経常収支比率の均衡 2/2

年度報告書 p45~46

項目別評価総括表Ⅲ-1

◇ 令和4年度の医業収支比率（機構全体）は、入院患者数や入院収益、病床稼働率が計画を下回り、78.6%と目標を達成しなかった。

医業収支比率（%）	H30	R1	R2	R3	R4
機構全体	82.9	81.7	80.4	80.1	78.6 (82.4)
精神医療センター	70.4	65.4	64.3	67.5	61.4 (64.6)
がんセンター	86.9	85.9	84.5	83.3	82.9 (86.9)

※（ ）内は年度計画の目標値

Ⅲ 予算、収支計画及び資金収支計画

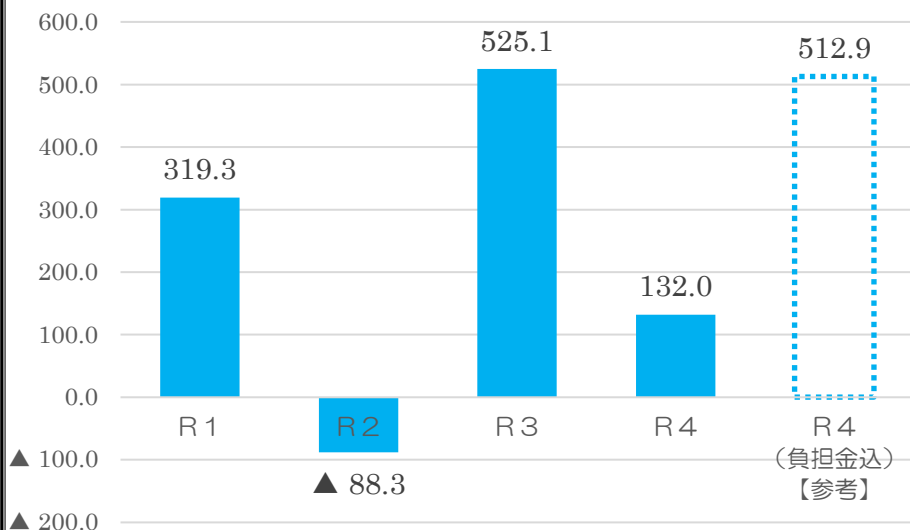
2 経営基盤の立て直し

年度報告書 p45~46

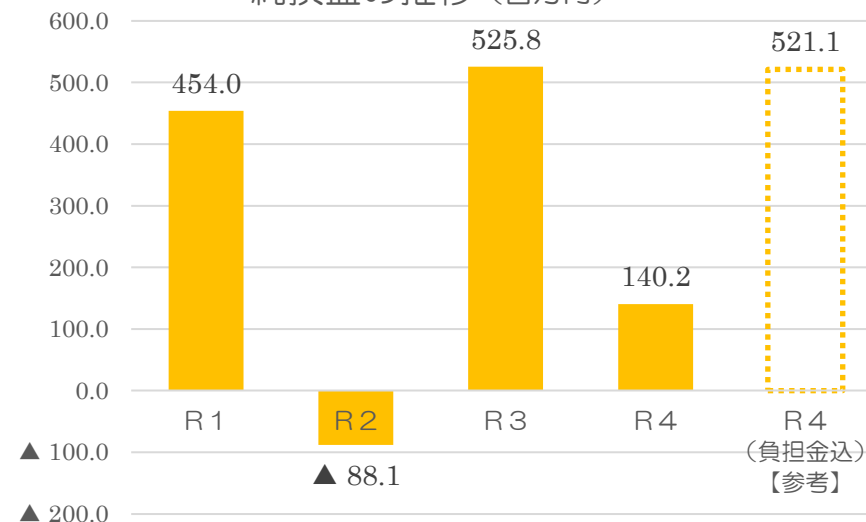
項目別評価総括表Ⅲ-2

■ 損益の推移(機構全体)

経常損益の推移 (百万円)



純損益の推移 (百万円)



運営費負担金（職員退職経費分）について、R4から資本助成として取扱う整理としたことに伴い、R4の金額は当該負担金（380.9百万円）を含まない。（詳細は、スライド【補足2】を参照）

※従来の計上方法（当該負担金を収益計上）した場合の金額は【参考】のとおり。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、2病院において入院収益が目標を下回ったものの、コロナ病床確保に係る補助金の受入等により経常損益は約132百万円、純損益は約140百万円の黒字となった。

IV 短期借入金の限度額

年度報告書 p45~46

項目別評価総括表IV

◇賞与の支給等による一時的な資金不足のため、20億円の限度額としており、令和4年度は設立団体から運転資金として500百万円の短期借入を行った。

V 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

VI 前期の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

年度報告書 p47~48

項目別評価総括表V~VI

◇不要財産の納付等は発生しなかった。

Ⅶ 剰余金の使途

年度報告書 p47~48

項目別評価総括表Ⅶ

◇令和3年度決算時点で繰越欠損金が△617百万円発生しており、令和4年度決算で140百万円の純利益の計上により、繰越欠損金は△477百万円となった。

Ⅷ 積立金の処分に関する計画

年度報告書 p47~48

項目別評価総括表Ⅷ

◇積立金は発生していない。

Ⅲ ～ Ⅷ

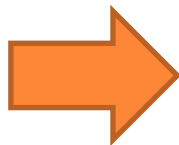
年度報告書 p45～48

項目別評価総括表Ⅲ～Ⅷ

【令和4年度の取組状況及び自己評価】

- ① 入院・外来収益が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けているが、新型コロナウイルス関連補助金収益が大きかった。
- ② 本部も合わせた機構全体では、経常損益、当期純損益ともに黒字となった。
- ③ 機構全体では、経常収支比率は目標を達成した。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。

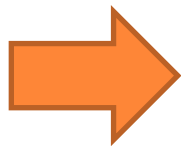


機構全体 B

【令和4年度の実績状況及び自己評価】

- ① 病院の実状に応じ、医療従事者の採用試験を実施。
- ② 障害者雇用について、昨年度まで法定雇用率が未達成の状況が続いていたが、職員の障害手帳の所持状況の確認や雇用者数を増やした結果、基準を満たした。
- ③ 退職者を再雇用し、経営効率の高い業務運営体制の構築に努めた。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。

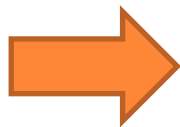


令和4年度自己評価 B

【令和4年度の取組状況及び自己評価】

- ① 中期計画・経営改善等に関する情報共有
 - ・ 理事長・院長等会議、事務局連絡調整会議、事務局グループリーダー会議を通じて2病院との情報共有や業務調整等を実施。
- ② 就労環境の整備
 - ・ 定期健康診断をはじめとする各種健康診断の実施。
 - ・ 新任職員研修の一環で、先輩職員からストレスコントロールについての講話を実施。
 - ・ 職員のストレスチェックの実施。
 - ・ 「勤務管理システム」を導入し、職員の勤務時間を把握、事務の省略化。
- ③ ハラスメントのない職場環境の構築
 - ・ 多くの職員に受講を促すため、オンラインで閲覧できるように工夫をしてハラスメント研修を実施。

以上を踏まえ、目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



令和4年度自己評価 B

Ⅸ-3 病院の信頼度の向上 1/1

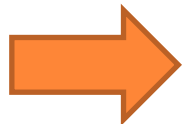
年度報告書 p51~52

項目別評価総括表Ⅸ-3

【令和4年度の実施状況及び自己評価】

- ① がんセンターでは、病院機能評価受審準備委員会を中心に課題解決に向けて取り組み、2月に病院機能評価更新のため審査を受けた。
- ② 各病院では、各種指定医療機関等の認定や随時必要な手続きを行うとともに、倫理審査委員会を開催し、患者への倫理的配慮等について、職員に周知徹底。

以上を踏まえ、両病院ともに目標を達成しており、年度評価は「B」とした。



<u>精神医療センター</u>	<u>B</u>
<u>がんセンター</u>	<u>B</u>

令和4年度のまとめ

【収支決算について】

- 今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けており、医業収益については、当初予算比△598百万円減の11,786百万円となったが、新型コロナウイルス関連補助金（主に病床確保分）収益が大きかった。
- 機構全体の当年度純損益は、140百万円の黒字となった。

【令和4年度の総括】

- 令和4年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大が医療体制に大きな影響を及ぼし、特に全国的な感染拡大の中、両病院でクラスターが発生したが、診療への影響を最小限に留めるよう尽力し、高度・専門医療を確実に提供した。
- 感染患者の受入など、新型コロナウイルス感染症に関する対応も継続して行っており、新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備費補助金等があり、病院機構全体で黒字決算とすることができた。

中期目標期間の業務実績等について

中期目標期間（令和元年度～令和4年度）における業務実績等を評価

【項目別評価】

資料「中期目標期間（令和元年度～令和4年度）業務実績等報告書」
項目別評価総括表のとおり、中期計画の項目に従い自己評価
→ 期間中の年度評価を踏まえて判定

【具体の取組】

同資料に取組を記載
→ 年度ごとの業務実績等報告と同様、中期目標及び中期計画に対応した形式でまとめ。

令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、この対応を求められた。

中期目標期間の経営状況

純損益の推移

単位：百万円

	R1	R2	R3	R4	【参考】 R4 (負担金込)
精神医療センター	△ 31	25	176	317	484
がんセンター	498	39	526	△ 1	213
本部事務局	△ 13	△ 152	△ 176	△ 177	△ 177
純損益計	454	△ 88	526	140	521

運営費負担金（職員退職経費分）について、R4から資本助成として取扱う整理としたことに伴い、R4の金額は当該負担金（計380.9百万円）を含まない。（詳細は、スライド【補足2】を参照）

※従来の計上方法（当該負担金を収益計上）した場合の金額は上表【参考】のとおり。

純資産の推移

機構全体の純資産：資産総額－負債総額

単位：百万円

	R1	R2	R3	R4
純資産	△ 894	△ 983	△ 457	64

中期目標期間のまとめ

【収支決算について】

- 中期目標期間初年度の令和元年度は、循環器・呼吸器病センターの閉院後、現2病院体制となった初めの年。
 - 令和元年度は、がんセンターの経営が特に順調に推移したことで、機構全体の当期純利益454百万円を計上した。
- 令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、厳しい経営状況となった。
 - 令和3年度、4年度は、患者の受入（病床確保）の取組に対する補助金等収益などにより黒字を確保。
- 中期目標期間の4年間は、令和2年度を除き、黒字を計上したことにより、令和4年度末時点で、純資産が64百万円となり、平成28年度以降続いていた債務超過が解消。

中期目標期間のまとめ

【総括】

- 両病院とも政策医療、[高度・専門医療の提供など](#)の役割を着実に果たしてきた。



精神医療センター

県内唯一のスーパー救急病棟の運用、県の精神科救急医療システム（365日24時間体制）での中心的役割など

がんセンター

最先端医療の推進、患者サポート、研究所の取組など

- 新型コロナウイルス感染症に対し、[院内の感染防止に万全](#)を期しながら、[軽症者宿泊療養施設等への職員の派遣](#)や[患者の受入を積極的に行う](#)ことで、県の対策に大きく貢献し、県立病院の役割を果たした。

※ 新型コロナウイルス感染症への取組はスライド【補足1】に整理

新型コロナウイルス感染症に関する取組 1/3

【中期目標期間】

療養施設等への職員派遣

沖縄県への看護師派遣

職種	期間	延べ人数	業務内容
看護師	R2.8.25~9.7	2人	検温や血圧測定等の健康観察, 患者の解除や点滴管理等

軽症者宿泊療養施設

職種	期間	延べ人数	業務内容
看護師	R2.9.17~R3.10.18	662人	健康観察, 採血, 入退所対応, 看護統括業務等
診療放射線技師	R3.1.22~R3.10.22	43人	エックス線撮影等
臨床検査技師	R3.2.3~R3.10.20 R4.1.19~R4.2.28	47人	血液検査等

東北大学ワクチン接種センター

職種	期間	延べ人数	業務内容
看護師	R3.5.24~R3.6.20 R3.8.2~R3.10.11	65人	ワクチン接種後の救護等
薬剤師	R3.5.31~R3.7.9	30人	シリンジへの分注作業等

宮城県抗体カクテル療法センター

職種	期間	延べ人数	業務内容
医師	R3.9.6~R3.10.11	11人	抗体カクテル療法の説明, 問診等

新型コロナウイルス感染症に関する取組 2/3

【中期目標期間】

名取市新型コロナウイルスワクチン集団接種

職種	期間	延べ人数	業務内容
医師	R3.5.26~R3.11.11 R4.2.9~R4.5.31 R4.7.7~R4.8.31 R4.10.5~R5.1.27	843人	予診（問診），体調不良者への処置・対応等

ワクチン接種の実施

アストラゼネカ社ワクチン接種（令和3年度～4年度）

実施場所	がんセンター
対象者	海外でアストラゼネカ社ワクチンを1回接種済みの方
実施人数	20人

看護師養成所等の学生に対するワクチン接種（令和3年度）

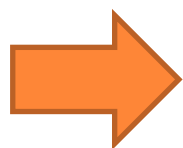
実施場所	がんセンター
対象者	宮城大学，宮城県高等看護学校，宮城県白石高等学校の看護学生等
実施人数	385人

新型コロナウイルス感染症に関する取組 3/3

【中期目標期間】

新型コロナウイルス感染症患者の受入数

	精神医療センター (東1病棟)	がんセンター (南病棟)
病床数	R4.8.16～ 5床 R4.9.1～ 8床	R3.2.8～ 4床 R3.4.5～ 8床 R3.8.20～ 10床 R5.1.23～ 11床 R5.2.20 10床
受入患者数	延べ137人	延べ3,671人



項目別総括表Ⅰ－第1－2「安全・安心な医療の提供」、
5「災害等への対応」において、新型コロナウイルス感染症
への対応を評価

運営費負担金（職員退職経費分）の会計上の取扱いについて 1/4

運営費負担金（職員退職経費分）

地方公営企業法が全部適用となる平成12年4月1日よりも前に採用された職員が退職した場合の退職手当について、支給額と同額を負担金収入として毎年受領している。

【性質の認識と会計上の取扱い】

令和3年度まで

経常費助成という認識のもと運営費負担金収益として取扱い

→ 純損益の構成要素

令和4年度から

資本助成という認識のもと資本剰余金として取扱い

→ 純損益に含まれない

（考え方）

年度ごとの退職者数に応じて県から助成されるものであり、年間の経営成績を表す収益としてではなく、出資金のような資本の増強として捉える方がより正確な財務状況を示せる。

運営費負担金（職員退職経費分）の会計上の取扱いについて 2/4

【純損益と当該負担金の推移（第3期中期計画期間）】

単位：百万円

	R1	R2	R3	R4
純損益	454	△ 88	526	140
当該負担金	168	197	292	381

負担金（381百万円）を含まない。

※ R3までの計上方法であれば、純利益は
140百万円+381百万円=521百万円

R3までと比べると年間の経営成績は悪化したように見える

一方で…

財政状況は変わっていない（実際に受取る金額に変わりはない。）

運営費負担金（職員退職経費分）の会計上の取扱いについて 3/4

【損益計算書と貸借対照表の関係性】

損益計算書：年間の経営成績を示す

貸借対照表：年度末の財政状況を示す

[R3] 当該負担金はR3純利益に含まれる

損益計算書

費用	収益
利益	

R3純利益 526百万円
(うち当該負担金 292百万円)

[R4] 当該負担金は資本剰余金に含まれる

損益計算書

費用	収益
利益	

R4純利益 140百万円

貸借対照表

単位：百万円

資産	負債	純資産計	△ 457
		資本金	160
	純資産	前期までの繰越欠損金	△ 1,143
		R3純利益 (うち当該負担金)	526 (292)
		資本剰余金	0

貸借対照表

単位：百万円

資産	負債	純資産計	64
		資本金	160
	純資産	前期までの繰越欠損金	△ 617
		R4純利益	140
		資本剰余金 →当該負担金の額	381

当該負担金は、取扱いの変更前後、どちらも純資産を構成するものであり、**財政状況（純資産）に着目すると、取扱い変更の影響はない。**

運営費負担金（職員退職経費分）の会計上の取扱いについて 4/4

【参考】独法化後の純損益と純資産

	第1期				第2期				第3期			
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
旧純損益 (A)	70	54	227	5	△ 332	△ 301	△ 477	△ 755	454	△ 88	526	521
負担金 (B)	307	235	271	291	234	145	266	518	168	197	292	381
新純損益 (A-B)	△ 237	△ 181	△ 44	△ 286	△ 566	△ 446	△ 743	△ 1,273	286	△ 285	234	140
純資産	244	299	525	530	198	△ 103	△ 580	△ 1,349	△ 895	△ 983	△ 457	64

※ 旧純損益：取扱い変更前の計上方法（負担金含む。）

新純損益：取扱い変更後の計上方法（負担金含まない。）

- 取扱いの変更前後で純資産の変動状況は変わらない。
- 第3期中期目標期間（R1～R4）においては、仮に、取扱い変更後の捉え方（新純損益）をしたとしても、新型コロナウイルス蔓延の影響を大きく受けたR2年度を除いて、黒字を計上している。